文部科学省委託事業

令和５年度

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

報　告　集

青森県道徳教育推進協議会

刊　行　に　よ　せ　て

青森県道徳教育研究協議会
会　長　　渡　邊　　諭

令和５年６月に閣議決定された『教育振興基本計画』の重要なポイントは、２点です。一つは「多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上」することであり、二つは「幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む」ということです。いずれも学校における道徳教育と関係が深いため、「目標２　豊かな心の育成」では、「道徳教育の推進」が施策として掲げられ、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、『特別の教科　道徳』を要とした道徳教育を推進する」ことが示されています。このことからも、『教育振興基本計画』のコンセプト「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」は、道徳科の授業抜きには成しえないものと考えます。

このように道徳教育の気運が高まる中、今年度、外ヶ浜町立蟹田小学校及び外ヶ浜町立蟹田中学校が、道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業の委託を受け、研究を進めることになりました。

外ヶ浜町立蟹田小学校では、研究主題「自己を見つめ、考えを深め合う児童の育成を目指して　～主体的・対話的で深い学びを視点とした道徳科の授業を通して～」のもと、自己の生き方について考えを深められるよう、道徳的な問題を自分事として捉えさせる工夫や物事を多面的･多角的に考えさせる方法の工夫に取り組む研究を進めてきました。その際、低・中・高学年の研究ブロックによる提案授業を仮説検証の場とし、成果と課題を明らかにすることで、自分の考えをもち、発言する児童の育成を図ってきました。

外ヶ浜町立蟹田中学校では、東青地区中学校教育研究会道徳部会研究主題「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める道徳教育」を受け、生徒に問題意識をもたせ、自分事として捉えて考えさせる工夫や多面的･多角的な視点から考えさせる発問及び学習形態の工夫、自らを振り返り、これからについて考える時間の確保、さらにはＩＣＴの効果的な活用の研究を進めてきました。その際、各学年による提案授業を仮説検証の場とし、体験を出し合う場の設定、発問や問い返しの精選、他者との対話を基にじっくりと自己と向き合う振り返りの時間を設けることで道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図ってきました。

以上に関わって両校では、研究授業の相互参観をはじめ、夏季には全体研修会を実施し、授業づくりの知見を深めました。また、「道徳性アセスメントBEING」等の調査・分析結果を授業づくりに反映させ、児童生徒の道徳性の向上的変容を図る研究にも取り組んでいます。このような小・中連携を生かした研究の推進は、児童生徒の９年間の成長と発達に即した道徳性の伸長となって、近い将来必ず反映されてくるものと考えます。

各小・中学校におかれましては、児童生徒が主体的に考え、進んで話し合い、議論する道徳科の授業に向けて、両校の実践で活用できる取組を、各学校の実態に即した形で生かす中、よりよい生き方を拓くことができる資質や能力を育んでいただければ幸いです。

最後に、本事業推進に当たり御支援、御尽力いただきました外ヶ浜町立蟹田小学校、外ヶ浜町立蟹田中学校、東青教育事務所、外ヶ浜町教育委員会をはじめ、関係の皆様に御礼を申し上げますとともに、本報告集が道徳教育の指針の一つとして活用されることを祈念し、刊行の挨拶とさせていただきます。

道徳教育の充実・改善に向けて

青森県教育庁
学校教育課長　嵯　峨　弘　章

道徳教育については、「特別の教科　道徳」が全面実施となってから、小学校では６年目、中学校では５年目となりました。また、高等学校においては、昨年度から年次進行で実施されている新学習指導要領において、道徳教育推進教師を位置付けること、公民の「公共」「倫理」及び特別活動が道徳活動の中核的な指導の場面であることが明記されており、学校教育における道徳教育の充実がより一層重要となっております。今後は、更なる道徳教育の充実に向けた研修の機会充実のため、教科化以降の実践的知見の見える化・共有化を図っていくことが求められます。

このため、県教育委員会では、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、道徳教育の充実を学校教育指導の方針と重点の一つに掲げ、地区道徳教育研究協議会や県総合学校教育センターでの研修など、道徳教育推進のための様々な施策を展開するとともに、文部科学省委託事業「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の中で、道徳教育推進協議会の開催、研究指定校による特色ある道徳教育の実践、道徳教育パワーアップ協議会の開催等に取り組んで参りました。

今年度は、外ヶ浜町教育委員会の御指導の下、外ヶ浜町立蟹田小学校、外ヶ浜町立蟹田中学校が研究指定校として研究実践に当たってくださいました。両校とも、道徳教育を推進する指導体制の整備・充実、道徳科における多様で効果的な指導方法の改善・充実、家庭・地域との連携による道徳教育の取組など、学習指導要領の趣旨に沿った道徳教育の充実に向けた実践を通した研究が行われました。

両校の実践は、道徳教育パワーアップ協議会において全県から集まった参加者に対して発表され、今年度の研究の成果を広く周知することができました。グループ協議では、意見交換が活発になされるなど、参加者の興味・関心の高さがうかがわれるとともに、自校の道徳教育の取組への参考になったことと思います。

本報告集は、両校の取組の成果等をまとめたものですが、県内全ての学校において、児童生徒の豊かな心の育成のため積極的に活用し、教育活動全体を通して自校の道徳教育の充実に役立てていただきたいと思います。

最後に、本報告集の作成に当たり、日々の教育実践を積み重ね、大きな研究成果を挙げられた外ヶ浜町立蟹田小学校、外ヶ浜町立蟹田中学校、御指導いただいた外ヶ浜町教育委員会、県道徳教育推進協議会会長である青森市立南中学校校長渡邊先生及び副会長である青森市立浪打小学校校長原子先生をはじめとする協議会委員の皆様に心から感謝申し上げます。

も　く　じ

〇刊行によせて
青森県道徳教育推進協議会　会長　渡　邊　　諭

〇道徳教育の充実・改善に向けて
青森県教育庁　学校教育課長　嵯　峨　弘　章

〇外ヶ浜町立蟹田小学校
道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業完了報告書
１　道徳教育に関する改善状況の概要……　１
２　実施した研究内容……　２
３　実施経過とその体制……　４
４　取組の成果と課題……　５
学習指導案
第２学年……１８
第４学年……２０
第６学年……２２
資料
道徳教育全体計画……２５
〇外ヶ浜町立蟹田中学校
道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業完了報告書
１　道徳教育に関する改善状況の概要……２６
２　実施した研究内容……２７
３　実施経過とその体制……３３
４　取組の成果と課題……３４
学習指導案
第２学年……４１
第１学年……４６
資料
道徳教育の全体計画……５０

外ヶ浜町立蟹田小学校

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

完　了　報　告　書

（外ヶ浜町立蟹田小学校）

1　道徳教育に関する改善状況の概要

本校では、令和元年度から３年間「自己を見つめ、考えを深め合う児童の育成を目指して～主体的・対話的で深い学びを視点とした道徳科の授業を通して～」のテーマのもと「導入と振り返りの工夫」「話合いの工夫」「評価の工夫」「現代的な課題の取り扱いの工夫」の研究内容に取り組んできた。振り返りの観点を与えたり、思考ツールやＩＣＴを活用して共有する場を工夫したりしたことによって、自分の考えを発表することができた。

しかし、友達の考えに対して意見を述べるといった、自分の考えをより深めることに課題が見られた。

これらを受け、今年度は、道徳教育の抜本的改善・充実を図るために、校内研修の主題・副題を「自己を見つめ、考えを深め合う児童の育成を目指して～主体的・対話的で深い学びを視点とした道徳科の授業を通して～」とした。また、児童一人一人が主体的に課題や目標を見付け取り組めるように、「道徳的な問題を自分事として捉えさせる工夫」をすることで、自己の生き方について考えを深められるようにしたり、「物事を多面的・多角的に考えさせる方法の工夫」をすることで、自己の生き方について深められるようにしたりして研究を進めた。さらに、本校の道徳教育の抜本的改善・充実のねらいにせまるため、次の３項目を重点とし取り組んだ。

（１）特別の教科道徳

教師の授業スキルの育成・向上だけでなく、精神的な安全・安心な居場所づくりに努めることで、児童同士の適切な横の繋がりが強い学級集団づくりを基盤として、自他を見つめ、認め合いながらより正しい判断ができるように、「道徳的判断力・心情・実践意欲と態度」を育成していく。

（２）日常の学習や体験活動

教育活動全体との関わりを通して道徳性を養う。各行事・集会等における事前・事後指導の徹底、豊かな体験活動、異年齢集団や地域との交流を大切にする。

（３）家庭や地域との連携

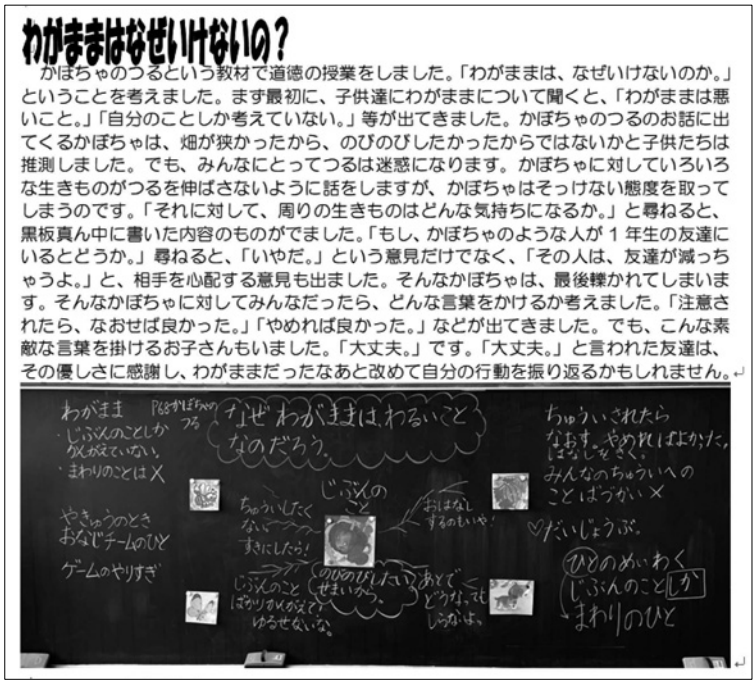
学校と家庭の関係は、お互いによき理解者・相談相手であり、共に改善策を考え同一歩調で指導していく。

その結果、以下のような成果や課題が見られた。

ア　自分の考えをもたせてから、ねらいにつながる主発問を中心とした授業づくりの研究を進めたことで、教師が発問を吟味して取り組むようになった。また、ねらいを達成するための対話をどのように授業に取り入れるかについても意識できるようになった。さらに、児童同士の横の繋がりが強い集団づくりにも取り組んだ結果、自分の考えをもち、発言する児童が増えた。

イ　豊かな自然や人材を活用したり、本校児童の進学先である蟹田中学校や、卒園者の多い風のまちこども園の園児と交流したりすることを意図的に多く設定することによって、道徳性を養うことができた。

ウ　道徳教育を家庭や地域へ理解してもらう取組として、提案授業や参観日における道徳科の授業公開、学級通信による道徳科の授業の様子の掲載、長期休業前に道徳ノートの持ち帰りを行った。必要に応じて、児童が道徳の授業で学んだ心に残った内容を書き、それを家庭に持ち帰って見せることによって、道徳授業の様子や道徳的価値について話題にする一助とすることができた。しかし、「教研式道徳性アセスメント BEING」の結果からも、家庭で道徳の授業を話題にする児童が少なかったことから、継続的に家庭との連携を行っていく必要がある。提案授業では、各学年とも保護者に参観していただいたが、参観した保護者の考えを直接聞くことができなかったので、アンケート等を実施すれば良かったと感じている。


わがままはなぜいけないの？

かぼちゃのつるという教材で道徳の授業をしました。「わがままは、なぜいけないのか。」ということを考えました。まず最初に、子供達にわがままについて聞くと、「わがままは悪いこと。」「自分のことしか考えていない。」等が出てきました。かぼちゃのつるのお話に出てくるかぼちゃは、畑が狭かったから、のびのびしたかったからではないかと子供たちは推測しました。でも、みんなにとってつるは迷惑になります。かぼちゃに対していろいろな生きものがつるを伸ばさないように話をしますが、かぼちゃはそっけない態度を取ってしまうのです。「それに対して、周りの生きものはどんな気持ちになるか。」と尋ねると、黒板真ん中に書いた内容のものがでました。「もし、かぼちゃのような人が１年生の友達にいるとどうか。」尋ねると、「いやだ。」という意見だけでなく、「その人は、友達が減っちゃうよ。」と、相手を心配する意見も出ました。そんなかぼちゃは、最後輩かれてしまいます。そんなかぼちゃに対してみんなだったら、どんな言葉をかけるか考えました。「注意されたら、なおせば良かった。」「やめれば良かった。」などが出てきました。でも、こんな素敵な言葉を掛けるお子さんもいました。「大丈夫。」です。「大丈夫。」と言われた友達は、その優しさに感謝し、わがままだったなあと改めて自分の行動を振り返るかもしれません。

学習した内容を
学級通信へ掲載

2　実施した研究内容

（1）地域の実態や課題に応じた特色ある道徳教育の取組の概要

ア　蟹田中学校との連携

中学校が主催して行った秋田公立美術大学の毛内嘉威教授を講師として招いた学習会に、本校の職員も参加した。小学校の教材を中学校の授業で取り上げる際、発達段階において様々な発問が考えられることを学び、お互いに有意義な時間を過ごすことができた。

本校で２回実施した要請訪問では、蟹田中学校から複数名の参観者があった。本校からも蟹田中学校の要請訪問に参加した。意見交流を行うことで、小学校・中学校間の円滑な接続を意識した取組を行うことができた。

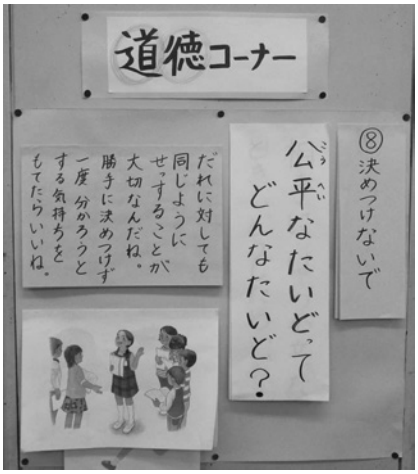
イ　「道徳アンケート」と「教研式道徳性アセスメント BEING」の実施

今年度の取組の成果と課題について把握するため、５月と１１月に全校児童を対象に「道徳アンケート」と「教研式道徳性アセスメント BEING」を実施した。「道徳アンケート」は、「特別の教科道徳」に関する内容が３問、内容項目に関わる項目を低学年は１９問、中学年は２０問、高学年は２２問回答する。「教研式道徳性アセスメント BEING」は、「特別の教科道徳」や、学校全体の取組としての道徳教育で培われる道徳性を、様々なかかわりや側面から捉える

ために、標準化されたアセスメントとなっている。人間として自分らしい生き方を深く考える力、すなわち道徳的実践へとつながる力をどのようにもち、どのような傾向にあるのかなどの実態を把握することができる検査である。

ウ　教室環境の整備

道徳の時間に、どのようなことを学んだのかが分かるように、主題名、児童たちからの発表や意見、主な挿絵を教室内に掲示した。『道徳コーナー』を各教室に設定し、学習の足跡を児童が感じられるようにした。



道徳コーナーの掲示

（２）道徳科の授業研究

ア　研究目標

道徳科において、自己を見つめ、自分の考えを深める児童を育成するために、道徳的な問題を自分事として捉えさせる工夫をすることや、物事を多面的・多角的に考えさせる方法を工夫することが有効であることを、実践を通して明らかにする。

イ　研究仮説１

道徳的な問題を自分事として捉えさせる工夫をすることによって、主体的に考え、多様な考えにふれることができるのではないか。

自分の考えをもたせる工夫 ・事前アンケートの活用 ・ＩＣＴの活用 ・自分自身に向き合うことができる課題設定 ・板書の工夫 ・発問の工夫（中心発問、補助発問、ゆさぶり、問い返し等）

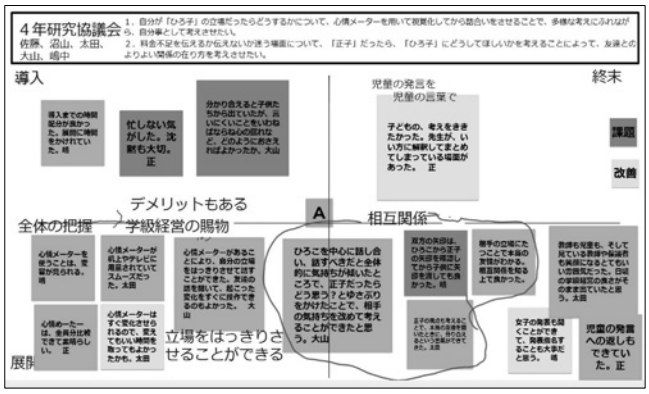
ウ　研究仮説２

物事を多面的・多角的に考えさせる方法を工夫することにより、自分についての考えを深めることができるのではないか。

物事を多面的・多角的に考えさせる方法の工夫 ・自分の考えを深める工夫（ペア、グループ、全体） ・活動の工夫（役割演技、動作化、ペープサート） ・発問の工夫（中心発問、補助発問、ゆさぶり、問い返し等）

エ　検証授業及び協議会の実施

１０月の東青管内道徳教育研究協議会公開授業に向けて、第２学年と第４学年の道徳科の授業を要請訪問として行った。第４学年では、第６学年と同じ内容項目の授業を行った。授業後、一人一台端末の付箋機能を使用し研究協議を行い、東青教育事務所松谷雄一指導主事から指導・助言をいただいた。

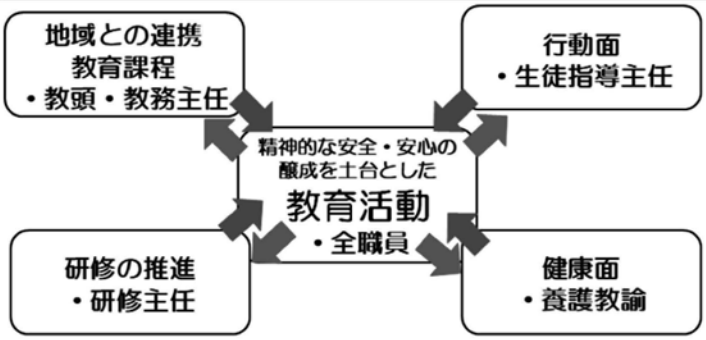


3　実施経過とその体制

月	取組の内容	備考
4 月	・研究組織づくりと実践研究計画共通理解	
5 月	・道徳アンケート①の実施 ・提案授業①のための指導案検討会	
6 月	・道徳アンケート①の集計・分析 ・ＢＥＩＮＧ①（道徳教育アセスメント）実施 ・提案授業①第２学年（要請訪問） 教材名「一りん車」　授業者　太田　真帆 ・道徳に関わる研修会①（県外視察２名） ・中学校計画訪問授業視察 （校長、教務主任、研修主任）	指導・助言　東青教育事務所 松谷　雄一　指導主事
7 月	・ＢＥＩＮＧ①（道徳教育アセスメント）分析 ・県道徳教育推進協議会への参加（研修主任）	
8 月	・提案授業②のための指導案検討会 ・小中連携夏季全体研修会	
9 月	・提案授業②第４学年（要請訪問） 教材名「絵はがきと切手」授業者　松林　瑞姫 ・道徳教育の抜本的改善・充実にかかる支援事業 蟹田中学校公開授業出席 （校長、教務主任、研修主任） ・公開授業のための指導案検討会	指導・助言　東青教育事務所 松谷　雄一　指導主事
10 月	・公開授業のための指導案検討会 ・東青管内道徳教育研究協議会公開授業　第６学年 教材名「ロレンゾの友達」　授業者　齋藤　翔太 沼山　隆一	指導・助言　東青教育事務所 松谷　雄一　指導主事
11 月	・道徳に関わる研修会①（県外視察１名） ・ＢＥＩＮＧ②（道徳教育アセスメント）実施 ・道徳アンケート②の実施 ・校内研修（取組状況の中間報告と確認）	
12 月	・道徳アンケート②の集計・分析	

	・ＢＥＩＮＧ②（道徳教育アセスメント）分析	
１月	・県道徳教育推進協議会への参加②（研修主任） ※研究成果の説明 ・「道徳教育パワーアップ協議会」にて実践事例発表	
２月	・研究紀要の作成 ・次年度の研究へ向けての検討	

・推進体制



４　取組の成果と課題

（１）検証授業及び協議会について（２学年）

主題名　きまりを　まもる　〈Ｃ－規則の尊重〉

教材名　「一りん車」（出典：「わたしたちの道徳」日本文教出版）

ねらい　きまりを破ったという一つの事柄について、様々な人の気持ちを考えることを通して、身近な約束やきまりを守り、みんなが気持ちよく生活できるようにしようとする態度を育てる。

研究内容

ア　もし自分が主人公だったらどうするか紅白帽子を使って視覚的に分かるようにしてから話し合うことによって、自分と同じ考えや違う考えにふれながら、主体的に話し合わせる。

イ　きまりを破ったという一つの事柄について、「先生」と「みんな」の気持ちを考えることによって、みんなが気持ちよく生活するためにあるきまりの大切さについて考えを深めさせる。

授業後に行われた研究協議会では、以下のような意見（○成果、●課題）が出された。

○紅白帽子を被って意思表示することは、発表することに苦手意識を感じている児童にとって効果的だった。

○みんなのことを考えることにふれさせたことは、周りに悲しい思いをさせてしまったという考えが出てくることに繋がったので良かったと思う。

○挿絵の表情に着目させたのが良かった。

●紅白帽子の色の変化を取り上げると、より考えが深まると感じた。

●考えを書くことができていた児童がほとんどだった。ペアでも話し合わせると考えを伝えることが苦手な児童も言えたかもしれない。自分の考えを伝える場があっても良かった。

松谷指導主事からの指導・助言

・紅白帽子を使ったことは、視覚的に分かるだけでなく、発表が苦手な児童にとって自分

の考えを表出する手立てとして有効だったと思う。授業者からもあったが、今回の授業はどんどん児童の言葉を拾っていく形だった。ペアだけでなく、移動して違う色や同じ色の人同士話し合うなど、経験を積み重ねていくうちにいろいろな方法で話し合うことができると思う。

・今回の中心発問がねらいに迫るために、朝礼の話を聞いている二人の挿絵を大きくして、本文の「胸がちくりとした」ということをもう一度取り上げたり、下を向いている様子をおさえたりすると、多様な考えが広がるだけでなく、振り返りの中で下を向いた理由が分からなかったと書く児童の考えの解消になったのかもしれない。

・今回の授業でよく出てきた言葉として、「みんな」という視点を大切にしたい。集団の中に自分もいる、自分も一人であることを理解させたい。朝礼の挿絵がまさにその通りだった。それを感じさせることができていたと思う。「みんな」には、自分も相手も、そのものや場所を使う多くの人が含まれる。きまりを守ることで、そのみんながよい気持ちになる。さらに、みんなが優しい集団や社会になるといった視点も大切にしたい。きまりを守ったらみんなが楽しくなるということが、終末で児童から出てきたのが良かった。また、低学年では、きまりを破った時の後味の悪さやうしろめたさ、守った後の気持ちのよさについても、ふれさせるといいと感じている。今日の授業は、それが出ていたので良かった。

児童の意見を分かりやすくまとめた板書

紅白帽子を使って児童の立場をはっきりさせる場面

（２）検証授業及び協議会について（４学年）

主題名　友達のことを考えて　〈Ｂ－友情、信頼〉

教材名　「絵はがきと切手」（出典：「生きる力」日本文教出版）

ねらい　登場人物の気持ちを考えたり、心情メーターを用いて自分の立場を明らかにし、他の考えの人と話し合ったりすることを通して、友達とのよりよい関係を考え、信頼し、助け合おうとする態度を育てる。

研究内容

ア　自分が主人公の立場だったらどうするかについて、心情メーターを用いて視覚化してから話合いをさせることで、多様な考えにふれながら、自分事として考える。

イ　料金不足を伝えるか伝えないか迷う場面について、相手だったら、主人公にどうしてほしいかを考えることによって、友達とのよりよい関係のあり方を考える。

授業後に行われた研究協議会では、以下のような意見（○成果、●課題）が出された。

○心情メーターはとても良かった。気持ちの変化や変容を把握したり、全員分の意見を比較したりすることができる。

○一方的な思いで終わってしまう可能性があったが、相手側の視点があることで、双方の視点をもつきっかけになる。

●いつでも心情メーターを変えてもよいことになっていたので、児童がいつメーターを変えたのか把握しにくかった。変えるタイミングを意図的に作るなどすることで、変化のタイミングを知ることができたり、一人一人の発表する場を作ったりすることに繋がったかもしれない。

●学級の実態によっては、最初から全体で画面を共有することは、影響力のある児童に影響されて、意見を変えてしまうかもしれない。

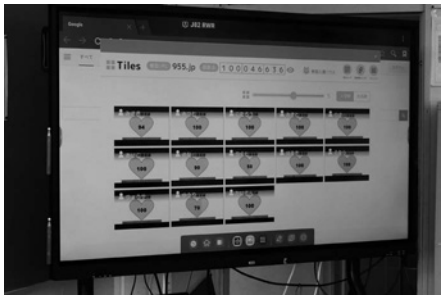
松谷指導主事からの指導・助言

・ねらいも評価も良かった。指導要領の内容がしっかりおさえられている。今後も、児童の成長の様子を、ノートなどを蓄積することで、評価する必要がある。１時間だけで評価するものではない。

・学習指導要領より、友情・信頼とは、中学年からは「互いに」が出ているため、双方向で行われることを、児童たちがおさえる必要がある。

・考えを変えた人から、意見を聞く場面があってもいいかもしれないと感じた。理由を発表することで、少数意見の考えも表面化することができたかもしれない。揺さぶりの発問で、少数の意見を大切にしていきたい。

ペアでの対話の様子



「心情メーター」を用いた授業

（３）検証授業及び協議会について（６学年）

主題名　ほんとうの友達　〈B－友情、信頼〉

教材名　「ロレンゾの友達」（出典：「生きる力」日本文教出版）

ねらい　三人の登場人物の、友達に対する考え方の共通点や相違点を考えたり、四人目の友達として自分だったらどうするかを話し合ったりする活動を通して、よりよい友達関係を構築するためには、相手を信じることが大切であることに気付き、互いに信頼し、友情を深めようとする心情を育てる。

研究内容

ア　三人の考え方の中で、一番共感する考えにネームプレートを貼ることで、自分事として捉えてから話し合わせることによって、友達との共通点や相違点に気付かせ、多様な考えにふれさせる。

イ　四人目の友達として、かしの木の下にいたら、三人にどう伝えるかを考え、グループで意見交流することによって、多様な考えにふれ、本当の友達についての考えを深めさせる。

授業後に行われた研究協議会では、以下のような意見（○成果、●課題）が出された。

○ネームプレートを活用することによって、「ニコライよりのサバイユ」のように、考えを絶妙に可視化できてよかった。また、誰々の考えを聞いてみたいという児童の考えや少人数の意見を拾い上げることができた。

○児童たちが困っていたので、すぐ確認をしたのが良かった。

●自分と同じところに貼っている、違うところに貼っているのは視覚的に分かるが、どこの部分が一緒なのかまでは分かりづらいので、ペアでの交流をしたら良かった。

●四人目の友達の条件が捉えづらかった。

松谷指導主事からの指導・助言

・道徳科の目標は、「自己を見つめ、多面的・多角的な考えを知る」ことである。本授業は、それを意識することができていた。道徳科は、目標が全てである。

・「互いの人格を尊重し合う人間関係であること」が指導の要点であった。道徳では、内容項目の四つの視点の違いを意識させることも大切であり、本時では、登場人物の関係性を捉えることが大切であった。立場や時間を変えたり、共通点や相違点を考えたりすることが、新たな気付きにつながる。

・内容項目の友情、信頼について低学年は「結果に注目」、中学年は「行動の理由」、高学年は「正しいことをする理由を考えさせる」という風に、発達段階ごとに注意するべきところが違う。分かりきった授業にはならないよう、内容項目の発達段階を意識することが大切である。

児童が考えを確認しやすい板書の工夫

時間短縮のための教材づくり

（４）検証授業や普段の授業から

ア　道徳的な問題を自分事として捉えさせる工夫

事前アンケートの結果を活用することは、ねらいに関わる経験を振り返り、めあてにつなげることに有効であった。アンケートの結果の提示の仕方も、視覚的に理解ができるような工夫が必要である。

また、自分の考えを明らかにするために、紅白帽子、心情メーター、ネームプレートなどを活用し、自分の立場をはっきりさせてから、ペアやグループで話し合わせることは、多様な考えを知る上では有効であったが、考えを深めるという点では、不十分であったように思う。教師が児童の考えをうまく取り上げ、繋げていけるように、問い返しの発問を吟味していく必要がある。

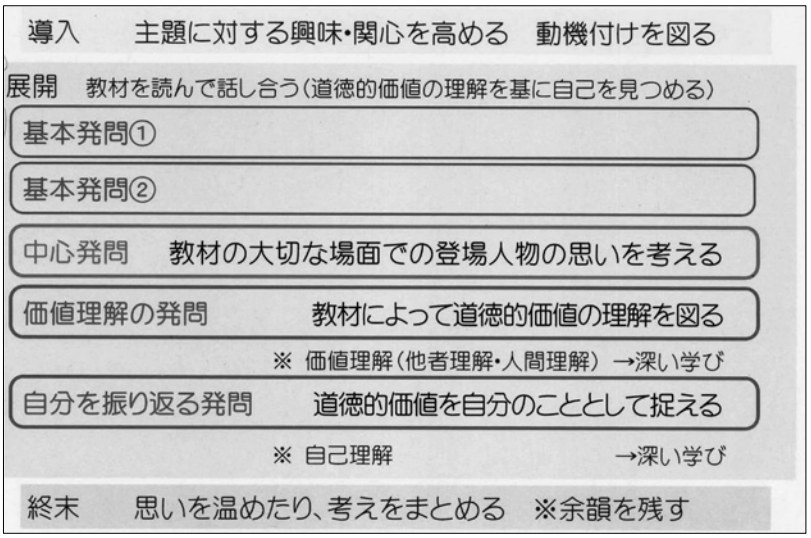
イ　多面的・多角的に考えさせる発問の工夫

教材に出てくる人物について、主人公の心の様子と自分との関わりで考えさせるだけでなく、主人公ではない人にも焦点を当てることで、多面的・多角的に考えることができるようになってきた。思考ツールを取り入れることで、思考の相関性が分かり、そ

れぞれの立場での発言が、多面的・多角的に考えるための手がかりとなった。

ウ　学習指導過程について

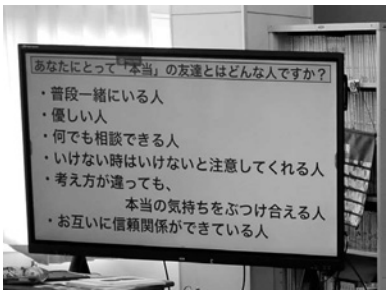
令和５年８月１７日（木）の東青管内小・中学校道徳教育研究協議会に出席した際、道徳科の特質を踏まえて進化した学習指導過程の例を参考資料としていただいた。共通理解を図るため、本校職員に配付し、価値理解の発問、自分を振り返る発問を授業の中に取り入れるように意識した。それによって、価値理解（他者理解、人間理解）、自己理解を深めることができた。



道徳科の特質を踏まえて進化した学習指導過程　例

参考「特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育」聖徳大学　吉本　恒幸

エ　ICT の活用



大型テレビの活用

大型テレビを使い、導入で児童アンケートをテキストマイニングなどで提示した。展開では、挿絵を大きく表示し主人公の表情を確認することで主人公の気持ちに児童が意識を向けることができた。また、学級全員の心情メーターを映し出すことによって、誰がどんな考えをしているか一目で分かりやすいものとなった。大型テレビを使ってアンケートを掲示する際は、展開後半や終末で変容を比較するためにも、再度テレビに映し出したり、用紙を使って掲示したりするなどの工夫が必要である。

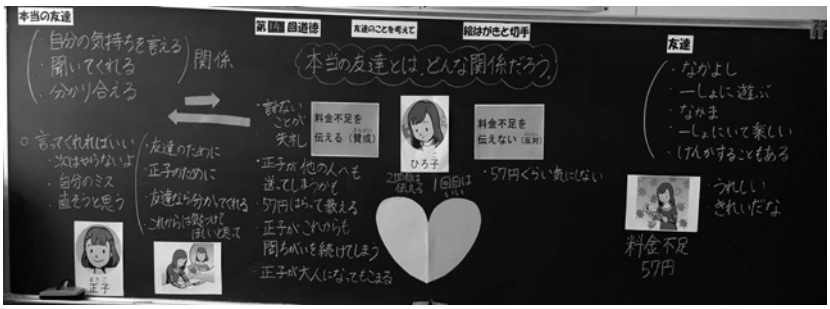
オ　教材の読ませ方について

挿絵を見せ、教材を読み聞かせした授業

低学年では、教材の内容が理解しやすいように動画を見せた。また、最後まで通して読んでしまわずに、前半、後半に分け、問題になる場面で一度区切り、主人公の行動を予想させた。最後にどうなるか分からないため、児童は自由に考え、様々な考えを出すことができた。高学年では、教材の長さによって、朝読書の時間を利用して教材をあらかじめ読んでおくことにした。そうすることで、時間の短縮にもつながり、授業時間を有効に活用できた。

カ　思考を引き出す板書の工夫

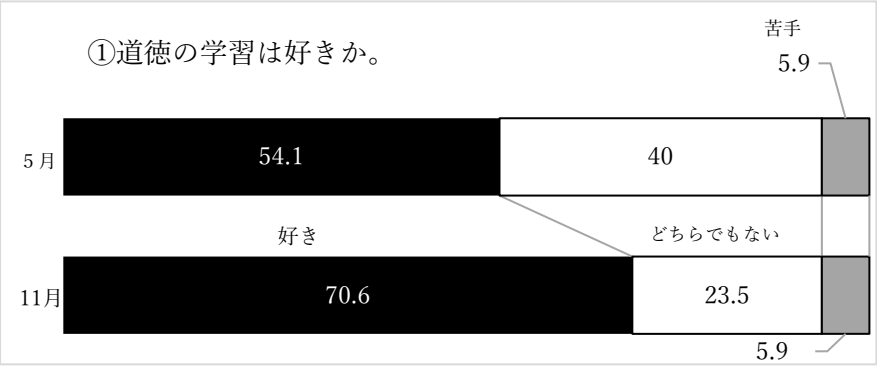
言葉での表現が難しい低学年においては、表情を使った板書や短い単語を使った表現は、登場人物の心情を理解したり、自分の思いを表現したりするのに有効であった。扱う資料によって、板書を左右や上下に分けたり、思考ツールを用いたりして工夫することで、考えを深めたり、広げたりすることができた。児童が本時の学習内容を振り返りやすい板書にするため、板書写真を基に板書計画を改善していくことが必要である。

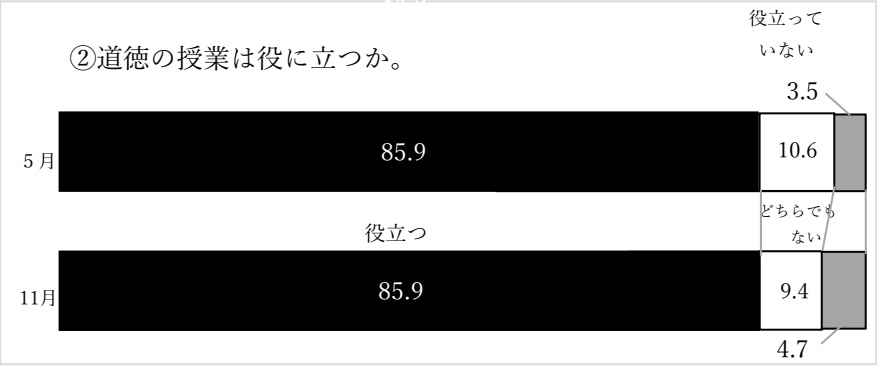


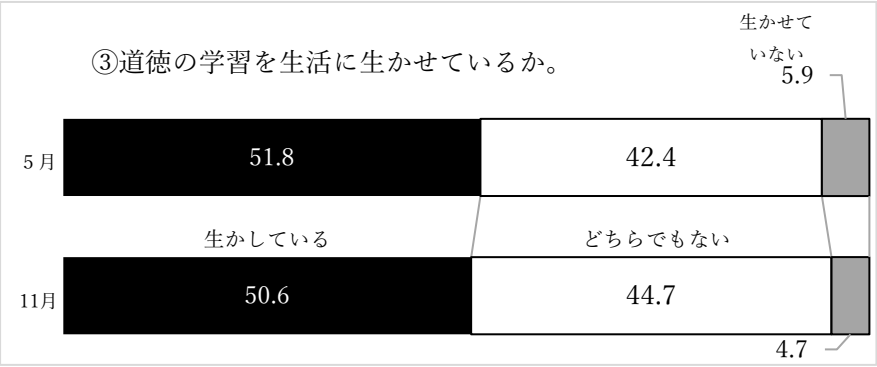
児童の思考を整理する板書

5　「道徳アンケート」の比較（５月と１１月に実施　調査対象：全校児童）について

（１）特別の教科道徳に関するアンケート

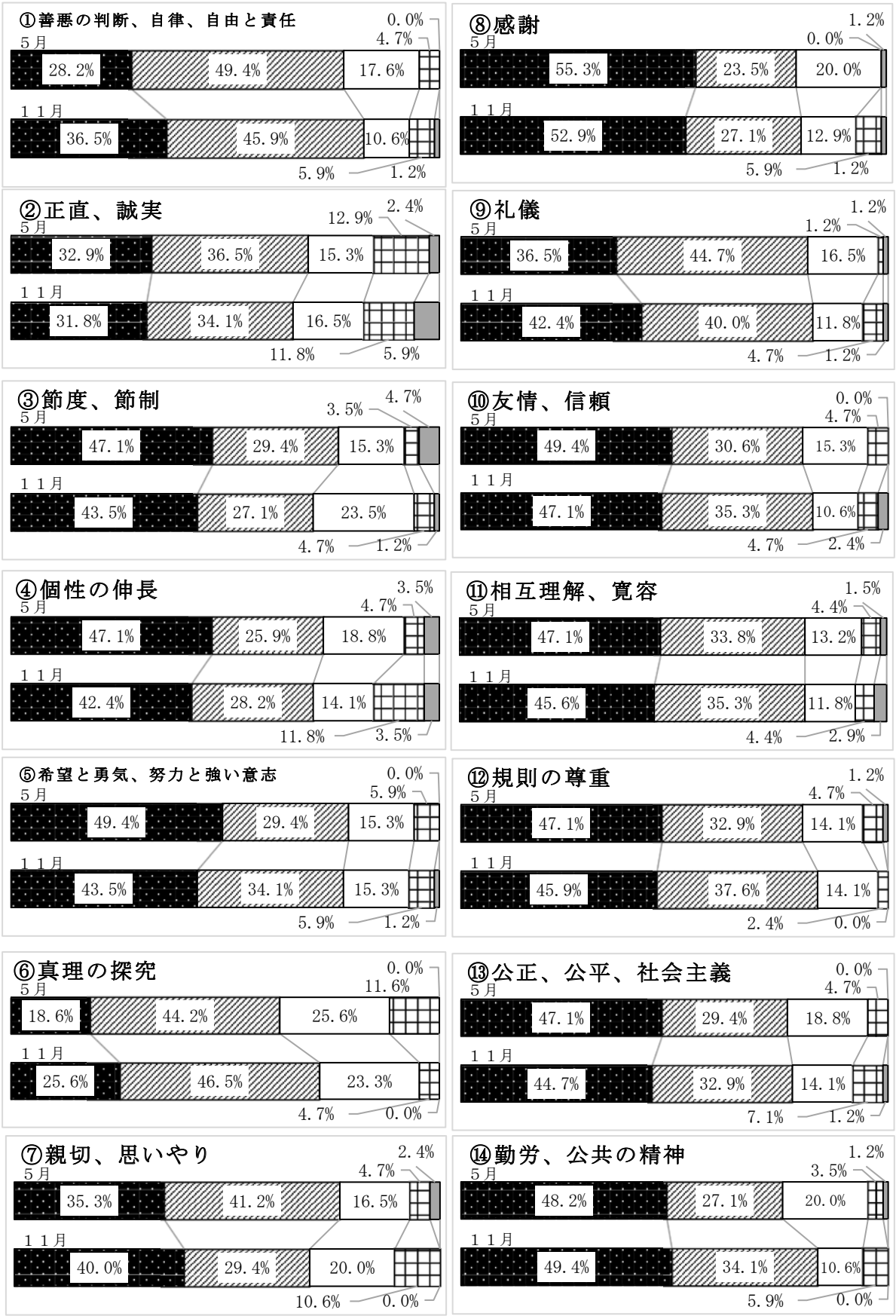


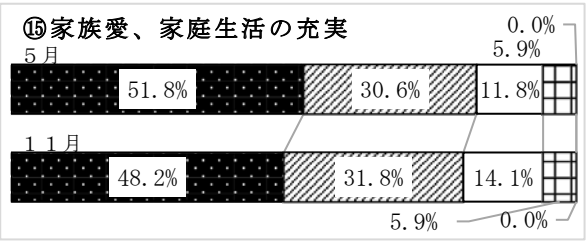


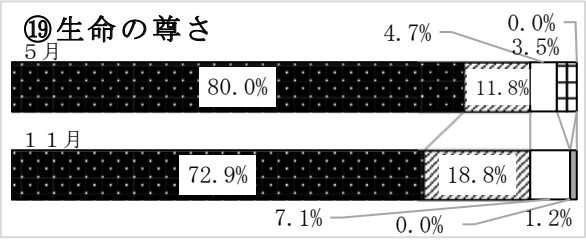


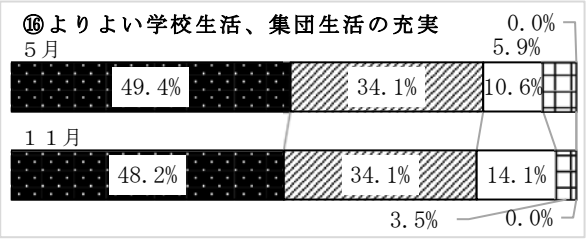
（２）内容項目に関するアンケート

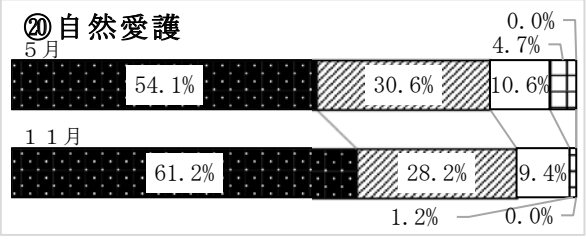
できている　ややできている　どちらでもない　ややできていない　できていない

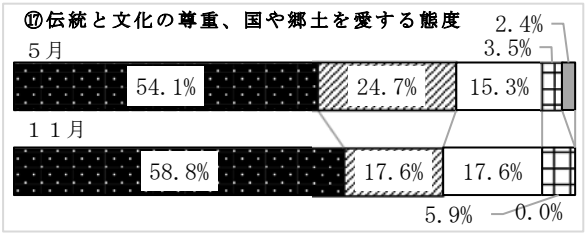


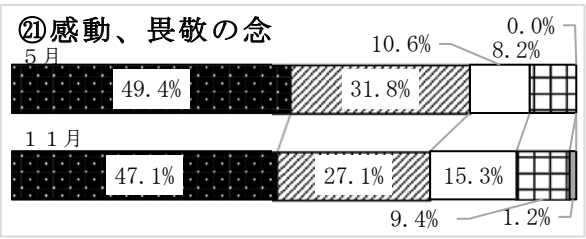


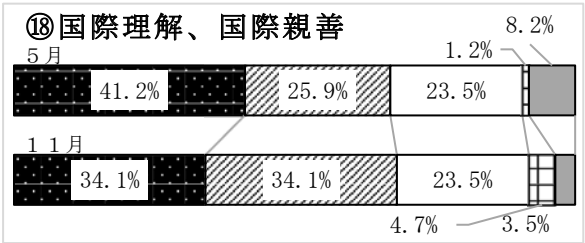


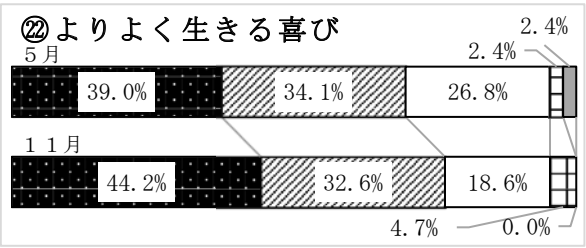












○次の質問項目で、「できている」「ややできている」と回答（以下：肯定的に回答）した割合に増加傾向がうかがえる。

①善悪の判断、自律、自由と責任　⑥真理の探究
⑫規則の尊重　⑭勤労、公共の精神
⑳自然愛護　㉒よりよく生きる喜び

○次の質問項目で肯定的に回答した割合は、減少傾向がうかがえる。

②正直、誠実（3.5%）　③節度、節制（5.9%）
⑦親切、思いやり（7.1%）　㉑感動、畏敬の念(7%)

○次の質問項目で肯定的に回答した割合は、大きな変化が見られない。

④個性の伸長　⑤希望と勇気、努力と強い意志　⑧感謝　⑨礼儀
⑩友情、信頼　⑪相互理解、寛容　⑬公正、公平、社会主義
⑮家族愛、家庭生活の充実　⑯よりよい学校生活、集団生活の充実
⑰伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度　⑱国際理解、国際親善　⑲生命の尊さ

（３）道徳教育の抜本的改善・充実に係る成果と課題

ア　道徳アンケートの結果から

一つ目は、「道徳の学習が好きか。」についてである。増加傾向に変容したと言える。教師が授業の工夫を行ったことや、学級の雰囲気がよく、児童対教師や児童同士が話しやすい環境になった表れである。児童からは、次のような意見が挙げられた。

好きな理由

・思ったことがたくさん書けるから。
・出てくる人物の気持ちを考えるのが好きだから。
・みんなの自由な意見が聞くことができるから。
・自分の意見を話しやすいから。
・登場人物の気持ちになって考えることが楽しいから。

二つ目の「道徳の学習は、役立つか。」という内容については、大きな変容は見られなかった。５月の調査の割合も８５％と高く、児童の中では、道徳は心のことを学ぶ大事な教科であるという考えが定着していたからだと考える。児童からは、次のような意見が挙げられた。

役立つと答えた理由

・大人になったとき、困らないから。
・実際にありそうなことが教科書に書いてあるから。
・道徳をしたあとに、次はこうしようと考えられるから。
・やっちゃだめなことが教科書に書いてあるから、それを守った方がいいと思うから。
・大人になって役立つと思うから。
・道徳で学んだことが少しだけど役に立っているから。

上記の二つについては、児童の考えが知りたいと考え、１１月のアンケートに記述部分を作成した。５月のアンケートにも記述部分があれば、学校の課題として更に意識して取り組むことができたと考える。

三つ目の「道徳の学習は、生活に生かせているか。」という内容については、大きな変容は見られなかった。「道徳の学習が好きか。」に関しては増加傾向であり、「道徳の学習は、役立つか。」に関しては５月、11 月ともに高めである。一方、「道徳の学習は、生活に生かせているか。」は、低い傾向にある。道徳で学習したことを自分事として捉えることが、まだ不十分であることや、道徳で学んだことが学校生活や家庭生活で、自然にできているため意識したことがないからと考えた。様々な原因が考えられるが、児童の実態について更に丁寧な分析を行い、学習したことを「使ってみたい」「前に学習したことが使えたかも」と思えるような授業の工夫に努めたい。

増加傾向が見られた中で注目する内容項目の一つ目は、「⑭勤労、公共の精神」である。元々高い割合だったが、中学生との海岸清掃や通常行っている縦割り清掃では、進んで活動する児童の姿が見られている。みんなで働くことのよさを実感したり、働いたあとの充実感を味わったりする場を吟味した成果の表れと考える。

二つ目は、「㉒よりよく生きる喜び」である。この項目は、高学年のみのアンケートになっている。学校の顔である高学年がリーダーとして活動することが多いことから、うまくいかない場面がありながらも、どうしたら今よりよくなるかについて、友達や担任に相

談しながら取り組んできた結果の表れではないかと考える。

イ　道徳性検査から

教研式道徳性アセスメント BEING の比較

（５月と１１月に実施　調査対象：全校児童）

本校の重点項目に挙げている「①善悪の判断、自律、自由と責任」、「⑤希望と勇気、努力と強い意志」について関わりのある視点 A と、「⑦親切、思いやり」について関わりのある視点 B について注目した。

視点 A について

１学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5 月	11 月
視点 A （主に自分自身との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	７５	８３	６７
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	１２	１７	３３
①善悪の判断、自律、自由と責任 ⑤希望と勇気、努力と強い意志	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	8	0	0
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	5	0	0

「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が減少した。１年生は児童の数が少ないため、データを参考にしづらい部分がある。そのため、児童個々の結果を参照する必要がある。

２学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5 月	11 月
視点 A （主に自分自身との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	８２	７３	７３
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	１０	9	9
①善悪の判断、自律、自由と責任 ⑤希望と勇気、努力と強い意志	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	4	9	１８
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	4	9	0

大きな変化は見られなかった。「気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある」児童の割合が０％となった。

３学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5 月	11 月
視点 A （主に自分自身との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	６０	５４	７７
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	２３	8	１５
①善悪の判断、自律、自由と責任 ⑤希望と勇気、努力と強い意志	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	１１	３８	8
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	6	0	0

「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が増加した。

4学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5月	11月
視点A （主に自分自身との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	６１	７１	５０
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	２４	１４	２９
①善悪の判断、自律、自由と責任 ⑤希望と勇気、努力と強い意志	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	9	7	２１
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	6	7	0

「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が減少した。検査全体として、全国平均に比べ、非常に割合が高い学年である。5月に比べ、謙虚に自分を見つめ直したことが減少につながったと考える。

5学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5月	11月
視点A （主に自分自身との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	５８	６０	６５
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	１７	２０	１５
①善悪の判断、自律、自由と責任 ⑤希望と勇気、努力と強い意志	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	１３	１０	１５
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	１２	5	5

大きな変化は見られなかった。「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が若干増加した。

6学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5月	11月
視点A （主に自分自身との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	５３	３０	３０
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	２１	３５	１７
①善悪の判断、自律、自由と責任 ⑤希望と勇気、努力と強い意志	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	１１	１３	３０
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	１５	２２	２２

大きな変化は見られなかった。４つある視点の中で、視点Aの「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」が全国と比べて差が大きい。自分に厳しい児童が多く、評価も低い傾向にあるのではないかと考えた。

視点Ｂについて

１学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5月	11月
視点Ｂ （主に人との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	６２	５０	５０
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	１６	１７	３３
⑦親切、思いやり	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	１６	0	１７
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	6	３３	0

大きな変化は見られなかった。「気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある」児童の割合が０％となった。視点Ａと同じく、１年生は児童の数が少ないため、データを参考にしづらい部分がある。そのため、児童個々の結果を参照する必要がある。

２学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5月	11月
視点Ｂ （主に人との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	６６	３６	２７
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	１３	１８	４５
⑦親切、思いやり	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	１４	３６	２７
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	7	9	0

「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が減少した。４つある視点の中で、視点Ｂの「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」が全国と比べ大きく下回っている。

３学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5月	11月
視点Ｂ （主に人との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	６７	５４	６２
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	１６	8	１５
⑦親切、思いやり	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	9	３１	１５
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	8	8	8

「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が増加した。

４学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5月	11月
視点Ｂ （主に人との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	７０	100	７９
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	１６	0	１４
⑦親切、思いやり	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	7	0	7
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	7	0	0

「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が減少した。検査全体として、全国平均に比べ、非常に割合が高い学年である。5月に比べ、謙虚に

自分を見つめ直したことが減少につながったと考える。

5学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5月	11月
視点B （主に人との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	６７	７５	６５
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	１８	１０	5
⑦親切、思いやり	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	6	5	２５
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	9	5	5

「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が減少した。「行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある」児童が増加した。

6学年

視点 内容項目	回答	回答の割合（%）		
		全国	5月	11月
視点B （主に人との関わり）	気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている	６６	５７	５２
	気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある	１７	２２	１７
⑦親切、思いやり	行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある	7	１３	３０
	気持ちが伴わず行動もおこさない傾向にある	１０	9	0

「気持ちと行動が望ましい傾向にありバランスがとれている」児童が減少した。「行動は望ましい傾向にあっても気持ちが伴わない傾向にある」児童が増加した。

学校全体として言えることは、「気持ちが望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある」児童が多いことから、教師や友達などと関わる力を、他教科との関連を含めた教育活動全体において身に付けさせていかなければならない。また、望ましい行動が取れるように、日常的にソーシャルスキルを取り入れるなどの工夫をする必要がある。これからも研修と授業実践を積み重ねて道徳教育の改善・充実を継続していきたい。

第２学年道徳科学習指導案

日　時　令和５年　６月１９日（月）５校時
対　象　１１名（男子　８名，女子　３名）
指導者　教諭　太田　真帆

１　主題名　きまりを　まもる　〈Ｃ－規則の尊重〉

２　教材名　「一りん車」（出典：「わたしたちの道徳」日本文教出版）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値

本主題は，第１学年及び第２学年における内容項目〈Ｃ－規則の尊重〉「規則や約束を守り，みんなが使う物を大切にすること」をねらいとしている。これは，第３学年及び第４学年における内容項目「約束や社会のきまりの意義を理解し，それらを守ること」へ発展していく。生活する上で必要な約束や法，きまりの意義を理解し，それらを守るとともに，自他の権利を大切にし，義務を果たすことに関する内容項目である。

第１学年及び第２学年の段階においては，まだ自己中心性が強く，周囲への配慮を欠いて自分勝手な行動をとることも少なくない。また，身の回りの公共物や公共の場所の使い方や過ごし方についてどうするのがよいのか，そしてそれはなぜなのかといった理解は十分とは言えない。そのような時期だからこそ，身近な約束やきまりを取り上げ，それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し，しっかり守ろうとする意欲や態度を育てる。

指導に当たっては，みんなで使う物や場所を進んで大切にし，工夫して使いたいという判断力や態度を身に付けられるようにする。

（２）児童の実態

本学級の児童は，明るく元気で，何事にも活発な児童が多い。男女ともに仲が良く，休み時間には，校庭や体育館で，体を動かして遊んでいる姿がよく見られる。しかし，遊びになると自分優先に考えてしまい，ボールの取り合いが起きてしまったり，乱暴な言葉遣いをしてしまったり，トラブルになる児童もいる。また，「相手を見て話を聞く」，「廊下は右側を歩く」といった学級や学校のきまりに関しても，そのきまりが大切なことは分かっているが，場の雰囲気や早く遊びたいという気持ちが先行し，きまりより自分の気持ちを優先してしまう児童が多い。

（３）教材について

本教材は，一輪車を自分たちだけで使いたいと思った二人の男の子が，一輪車を体育館の裏に隠したことから始まる。それに気付いた先生の話を聞いて，二人が反省するという内容である。

展開前段では，資料を紙芝居にしてモニターに映し，場面ごとに区切りながら，内容を捉えさせたり，その先を想像させたりする。そして，もし自分が一輪車を隠そうと誘われたとしたらどうするかについて，紅白帽子を使って自分の考えを視覚化する方法を取り入れる。自分の考えを目に見える形にしてから話し合うことで，自分と同じ考えや違う考えにふれながら，主体的に話し合わせたい。そして，登場人物の気持ちや行動に共感したり，自分の普段の過ごし方と比べたりしながら，自分事として考えさせたい。

展開中段では，一輪車を隠すというきまりを破ったことに対して，朝礼で話をした「先生」とその場にいた「みんな」の立場になって考えることによって，きまりを破ったという一つの事柄について，多角的に考えさせたい。

展開後段では，「先生」と「みんな」の気持ちを確かめてから二人の気付きを考えさせていく。きまりを自分本位な理由で破ると，周りの人が気持ちよく過ごせないことに気付かせたい。そして，みんなが気持ちよく生活するためにあるきまりの大切さについて考えを深めさせたい。

（４）他教科との関連

・生活科　「春の町はっけん」
・体育科　「ボールけりゲーム」

４　研究仮説との関連

（１）道徳的な問題を自分事として捉えさせる工夫をすることによって，主体的に考え，多様な考えにふれることができるのではないか。

【研究内容（１）】道徳的な問題を自分事として捉えさせる工夫

・もし自分が主人公だったらどうするかを紅白帽子を使って視覚的に分かるようにしてから話し合うことによって，自分と同じ考えや違う考えにふれながら，主体的に話し合わせたい。

（２）物事を多面的・多角的に考えさせる方法を工夫することにより，自分についての考えを深めることができるのではないか。

【研究内容（２）】物事を多面的・多角的に考えさせる方法の工夫

・きまりを破ったという一つの事柄について，「先生」と「みんな」の気持ちを考えることによって，みんなが気持ちよく生活するためにあるきまりの大切さについて考えを深めさせたい。

5　展開

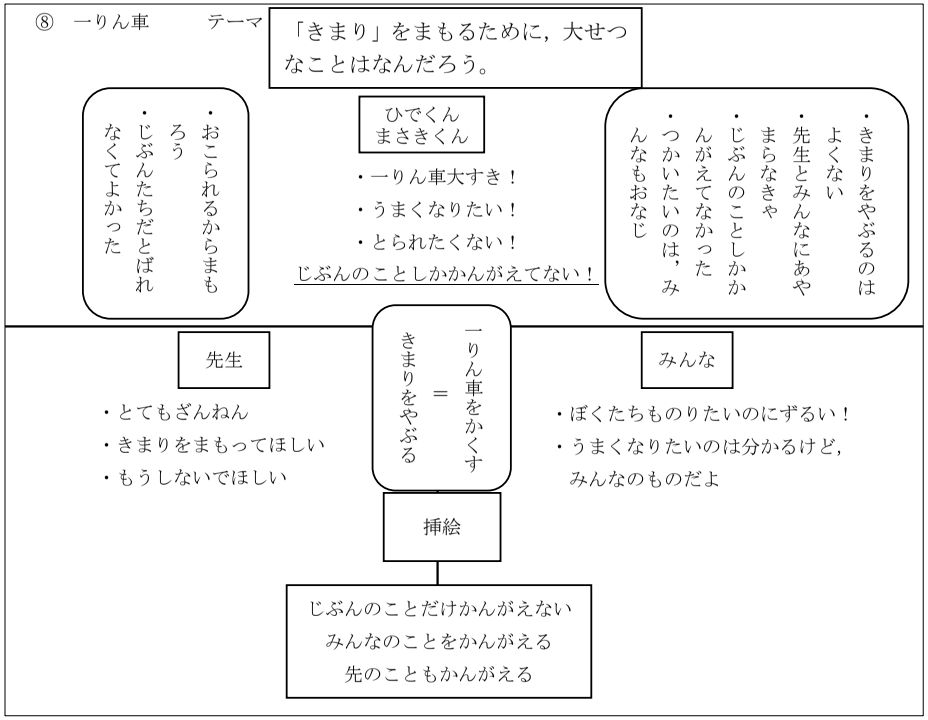
（1）ねらい

きまりを破ったという一つの事柄について，様々な人の気持ちを考えることを通して，身近な約束やきまりを守り，みんなが気持ちよく生活できるようにしようとする態度を育てる。

（2）展　開

	教師の働きかけ ○発問 ◎中心発問 ・補助発問	予想される児童の反応	※評価　・留意点 ○評価に対する支援
導入	○「きまり」と言われたら，どんなことをイメージしますか。	・大切なこと。 ・守らないといけない。 ・大変。めんどう。 ・守れないときもある。	・児童が挙げた身の回りにあるきまりから，イメージを広げられるようにする。
	○今日のテーマは，どうしますか。	・「きまりを守るためには，どうすればよいのだろう。」です。	
	「きまり」をまもるために，大せつなことはなんだろう。		
展開	○ふたりがほっとしたのは，どうしてですか。	・一輪車が大好きだから。 ・他の人に取られていなくて安心したから。	・資料を紙芝居にしてモニターに映し，場面ごとに区切りながら，内容を捉えさせたり，その先を想像させたりする。
	○あなたがまさきくんだったら，どうしますか。 ・ひでくんと一緒に一輪車を隠すという人は，紅白帽子の赤を，隠さないという人は白を被ってください。 ・それはどうしてですか。理由を発表しましょう。	隠さない…紅白帽子白 ・他の乗りたい人が困る。 ・一輪車はみんなのもの。 隠す…紅白帽子赤 ・どうしても上手になりたい。 ・自分たちが使いたい。 ・みんなのことを考えていない。	・自分の考えを目に見える形にしてから話し合うことで，主体的に考えさせたい。 【研究内容（1）】 もし自分が主人公だったらどうするかを紅白帽子を使って視覚的に分かるようにしてから話し合うことによって，自分と同じ考えや違う考えにふれながら，主体的に話し合わせたい。
	○先生だったら，ひでくんは友達だから一緒に隠してしまうかも。先生の考えをどう思いますか。	・さっきは隠さないって言ったけど，友達だから隠してしまうかも。	・児童の建前やきれいごとに揺さぶりをかけるために，発問を用意しておく。
	○二人がしたことを見て，どう思いましたか。	・自分のことしか考えてない。	
	○先生は，どんな思いでこの話をしたのでしょう。	・とてもざんねん。 ・きまりをまもってほしい。 ・もうしないでほしい。	・一輪車を隠すというきまりを破ったことに対して，「先生」と朝礼にいた「みんな」という立場からも気持ちを考える。 【研究内容（2）】 きまりを破ったという一つの事柄について，「先生」と「みんな」の気持ちを考えることによって，みんなが気持ちよく生活するためにあるきまりの大切さについて考えを深めさせたい。
	○もしみんながこの中の一人で，この話を聞いていたら，どう思いますか。	・ぼくたちも乗りたいのにな。 ・ずるいな。 ・気持ちは分かるけど，みんなのものだよ。	
	◎先生の話を聞きながら，二人はどんなことに気が付いたのでしょう。 ・ノートに自分の考えを書いてください。 ・発表してください。	・先生に怒られるからきまりは守らないとな。 ・きまりをやぶるのはよくない。 ・先生やみんなに謝ろう。 ・一輪車を使いたいのは，みんなも同じだ。 ・自分のことしか考えてなかったな。 ・自分のことばかり考えているから。	・主発問に対する考えを数名の児童に聞いてから，ノートに記入させる。 ・「先生」と「みんな」の気持ちを確かめてから取り組ませることで，きまりを自分本位な理由で破ると，周りの人が気持ちよく過ごせないことに気付けるようにする。 ・自分のことしか考えていない考えや相手の気持ちに気付いていない考え，目先のことだけを考えている考えなどが出てきた場合は，分けて板書する。
終末	○みんなの考えの中で，「きまり」を守るために，大切なことはなんでしょう。	・自分のことだけでなく，みんなのことを考えること。	
	○今日の学習で学んだことはなんですか。振り返りをしましょう。	・きまりを守るためには，みんなのことを考えることが大切だと気付いた。これからは，みんなのためにきまりを守りたい。 ・これまでは，自分のことばかり考えてきまりを守れていなかった。これからは，自分だけでなくみんなもいい気持ちになるように，きまりを守る。	・「ふりかえりのかぎ」を使って，学習を振り返る。 ※身近な約束やきまりを守り，みんなが気持ちよく生活できるようにしようとしている。 （ノート） ○何を書けばよいか迷っている児童には，「ふりかえりのかぎ」を一緒に決めてから，今日の学習を振り返させる。

6　板書計画



第４学年道徳科学習指導案

日　時　令和５年９月２０日（水）５校時
対　象　１４名（男子８名，女子６名）
指導者　教諭　松林　瑞姫

１　主題名　友達のことを考えて　〈Ｂ－友情，信頼〉

２　教材名　「絵はがきと切手」（出典：「生きる力」日本文教出版）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値

本主題は，第３学年及び第４学年における内容項目〈Ｂ－友情，信頼〉「友達と互いに理解し，信頼し，助け合うこと」をねらいとしている。これは，中学校の「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合うとともに，異性についての理解を深め，悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと」へと発展していく。このように，友達関係における基本とすべきことであり，友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。

第３学年及び第４学年の段階においては，活動範囲が広がることで，集団との関わりも増え，友達関係も広がってくる。また，気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し，楽しもうとする傾向があり，集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし，自分の利害にこだわることで，友達とトラブルを起こすことも少なくない。

指導に当たっては，友達のよさを発見することで友達のことを理解したり，友達とのよりよい関係のあり方を考えたり，互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるようにする。

（２）児童の実態

本学級の児童は，優しく素直な児童が多い。困っていたり，悲しんでいたりする児童がいると，声をかけたり，手助けしたりする等，思いやりの心をもって接する児童も見受けられる。
休み時間には，男女関係なく，ドッジボールをすることもあり，友達関係は良好で，仲よく楽しく過ごしている。しかし，仲がよくても，友達に伝えたいことをはっきり言うことができずに，担任に判断を求めてくる児童もいる。

（３）教材について

本教材は，仲よしの友達である正子から，料金不足の定形外のはがきをもらったひろ子が，料金不足であったことを伝えるかどうか迷うという内容である。

展開前段では，転校してしまった仲よしの友達からはがきが届いたら，どんな気持ちになるかを押さえる。ここでは，二人がとても良好な関係であることを確認する。

その後，展開中段では，料金不足であることを友達に伝えるかどうかを葛藤させ，心情メーターを用いて，ひろ子の伝えるという行動に，自分だったら賛成か反対かの立場を明らかにしながら，話し合わせる。心情メーターを用いることで，迷いがある児童の気持ちにも迫りたい。また，自分とは違う考えにも触れることで，考えを深めさせたい。

展開後段では，送り主である正子の気持ちも確認することで，相手のことを思うからこそ，言いづらいことを伝えることも時には必要であることに気付かせたい。また，ひろ子が正子に間違いを伝えると決心した心情を考えさせることで，双方の信頼の上に友情が成り立つことにも気付かせたい。

（4）他教科との関連

・図画工作科「色合いひびき合い」

・体育科　　「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動」「かけっこ・リレー」

4　研究仮説との関連

（1）道徳的な問題を自分事として捉えさせる工夫をすることによって，主体的に考え，多様な考えにふれることができるのではないか。

【研究内容（1）】道徳的な問題を自分事として捉えさせる工夫

・自分が「ひろ子」の立場だったらどうするかについて，心情メーターを用いて視覚化してから話合いをさせることで，多様な考えにふれながら，自分事として考えさせたい。

（2）物事を多面的・多角的に考えさせる方法を工夫することにより，自分についての考えを深めることができるのではないか。

【研究内容（2）】物事を多面的・多角的に考えさせる方法の工夫

・料金不足を伝えるか伝えないか迷う場面について，「正子」だったら，「ひろ子」にどうしてほしいかを考えることによって，友達とのよりよい関係のあり方を考えさせたい。

5　展開

（1）ねらい

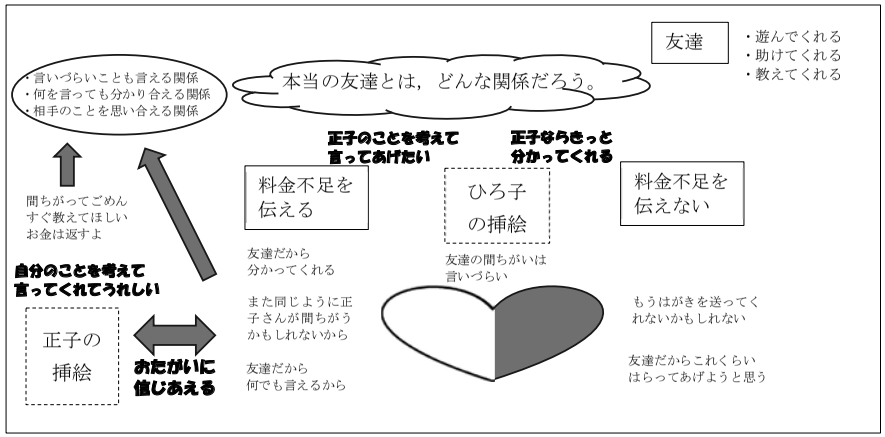
登場人物の気持ちを考えたり，心情メーターを用いて自分の立場を明らかにし，他の考えの人と話し合ったりすることを通して，友達とのよりよい関係を考え，信頼し，助け合おうとする態度を育てる。

（2）展開

	教師の働きかけ ○発問　◎中心発問　・補助発問	予想される児童の反応	※評価　・留意点 ○評価に対する支援
導入	○みなさんにとって友達とは，どんな人ですか。	・一緒に遊んでくれる。 ・困っているときに助けてくれる。 ・勉強を教えてくれる。	・普段の児童の様子をモニターに映しながら，友達とはどのような人なのか想起させる。
	○では，次の中で，「本当の」友達同士だと考えるものに手を挙げてください。 ・一緒に遊んでくれる。 ・けんかをしない。	・「本当の」となると難しいな。 ・「本当の」友達って何だろう。	・それぞれ挙手させることで，一人一人に本時の課題意識をもたせる。
展開	○今日のテーマを確認しましょう。 本当の友達とは，どんな関係だろう。		・友達との関係について考えることを押さえる。
	○転校した正子からはがきが届いたひろ子は，どんな気持ちだったと思いますか。	・嬉しい気持ち。 ・お礼を言いたいな。 ・きれいな絵だな。	・全文を範読する。 ・二人は仲よしな友達であることを押さえる。 ・届いたはがきが料金不足であったことを押さえる。
	○料金不足であったことを，友達だから伝えるという判断をしたひろ子さんの考えに賛成ですか，反対ですか。 ・自分だったらどうするか考えて，理由も考えましょう。 ・グループで意見を交流してみましょう。 ・発表しましょう。	伝える（賛成） ・友達だから何でも言える。 ・間違ったまま，他の人にもはがきを出してしまうかもしれないから。 ・後で知った方が嫌な気持ちになると思うから。 ・仲よしだったら分かってくれると思うから。 迷う ・言いたいけど，友達の間違いは言いづらいです。 ・伝えなきゃいけないと思うけど，友達関係が壊れたらどうしようと思いました。 伝えない（反対） ・伝えたら正子さんが傷つくかもしれないから。 ・嫌われたら嫌だから。 ・これくらい気にしない。 ・友達だから払ってあげればいいと思う。	・心情メーターを使って，意思表示ができるようにする。 【研究内容（1）】 自分が「ひろ子」の立場だったらどうするかについて，心情メーターを用いて視覚化してから話合いをさせることで，多様な考えにふれながら，自分事として考えさせたい。
	○もしみなさんが正子さんだったら，ひろ子さんにどうしてほしいですか。 ・なぜそのように思いますか。	・ちゃんとお金足りなかったよと言ってほしい。 ・後から気付いた方がきまずいと思うからです。 ・伝えてくれたらお金を返そうと思うからです。	【研究内容（2）】 料金不足を伝えるか伝えないか迷う場面について，「正子」だったら「ひろ子」にどうしてほしいかを考えることによって，友達とのよりよい関係のあり方を考えさせたい。
	◎伝えるか悩んでいたひろ子さんが，正子さんに伝えると決めたのは，どうしてでしょう。 ・ノートに書き，発表しましょう。	・正子さんのことを考えて伝えようと思ったから。 ・友達だからこそ後で困らないように伝えるべきだと思ったから。 ・友達だから言えば分かって	

		くれると思ったから。 ・友達だから怒らないで聞いてくれるはずだから。	
終末	○本当の友達とは，どんな関係だろう。	・言いづらいことも言い合える関係。 ・分かり合える関係。 ・お互いに信じ合っている関係。 ・間違いを伝えてくれる人。 ・間違いを伝えても怒らないで聞いてくれる人。	・本時のテーマに立ち返ることで，ねらいに迫る。
	○今日の学習を振り返りましょう。 ・ノートに書き，発表しましょう。	・相手のことを考えて，しっかりと間違いを伝えることが大切だと分かりました。 ・今までは友達の間違いを見ても注意したことがなかったけど，友達のことを思って言ってあげようと思いました。 ・本当の友達ならば，間違いも伝えてあげたいと思います。 ・友達に言いづらいことも言える人になりたいです。	※友達とのよりよい関係を考えている。（ノート） ○何を書けばよいか迷っている児童には，板書を見ながら，今日の話合いの流れを一緒に振り返る。

6　板書計画



第６学年道徳科学習指導案

日　時　令和５年１０月２７日（金）５校時
対　象　２３名（男子８名，女子１５名）
指導者　教諭　齋藤　翔太
　　教諭　沼山　隆一

1　主題名　ほんとうの友達　〈Ｂ－友情，信頼〉

2　教材名　「ロレンゾの友達」（出典：「生きる力」日本文教出版）

3　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値

本主題は，第５学年及び第６学年における内容項目〈B－友情，信頼〉「友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていくこと」をねらいとしている。これは，第１学年及び第２学年における内容項目「友達と仲よくし，助け合うこと」，第３学年及び第４学年における内容項目「友達と互いに理解し，信頼し，助け合うこと」に関連し，中学校における内容項目「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合うこと」へ発展していく。

第５学年及び第６学年の児童は，これまで以上に友達を意識し，仲のよい友達との信頼関係を深めていこうとするが，流行などにも敏感になり，趣味や思考が同じ閉鎖的な仲間集団を作る傾向も生まれる。そのため，疎外されたように感じたり，友達関係で悩んだりすることが今まで以上に見られるようになり，そのことが学校生活に不安を感じる要因の一つにもなっている。

そこで，指導に当たっては，友達同士の相互の信頼の下に，協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い，高め合うような，真の友情を育てるとともに，互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくことの大切さを実感できるようにする。

（２）児童の実態

本学級の児童は，休み時間や学習活動において，友達と楽しく遊んだり学んだりして，友達と一緒に過ごす楽しさや協力することの喜びを感じることができる。そして，困っている友達を助けたり励ましたりするなど，相手の気持ちを考えて行動できる児童も多い。

一方で，自分の思っていることを恥ずかしさや表現への苦手意識から伝えることがなかなかできない児童も見られる。そのため，いけないと分かっていても注意できずに見過ごしてしまったり，自分の思いと行動が伴わずにその場の雰囲気に流されてしまったりすることがある。

また，いつも一緒にいる人や仲よくしている人が友達であると考えている児童が多く，表面上だけの関係になっていることも少なくない。そこで，友達を信じることの大切さに気付かせ，よりよい人間関係を築いていこうとする心情を育てていきたい。

（３）教材について

本教材は，横領の容疑で警察に追われているロレンゾに対して，アンドレ，サバイユ，ニコライの三人が，友達としてどのように対応すべきかを懸命に考えるという内容である。

展開前段では，三人の友達のどの考え方に一番友情を感じるかを考え，話し合わせることによって，

自分の立場や考えをはっきりさせ，「友達」に対する考えを深めさせたい。

展開中段では，三人の友達の考え方の共通点を話し合わせることで，三人の対応は違っても，根本にはロレンゾを思いやる気持ちがあることに気付かせたい。また，三人ともロレンゾに対して罪を犯したことを前提に悩んでいて，友達として信じるということを忘れていたことにも気付かせたい。

展開後段では，四人目の友達として自分はどうするかを考え，グループでの意見交流を通して，本当の友達についての考えを深めさせたい。そして，よりよい人間関係を築くためには，お互いに信頼し合うことが大切であるということに気付かせたい。

（4）他教科との関連

・総合的な学習「修学旅行のまとめをしよう」

4　研究仮説との関連

（1）道徳的な問題を自分事として捉えさせる工夫をすることによって，主体的に考え，多様な考えにふれることができるのではないか。

【研究内容（1）】道徳的な問題を自分事として捉えさせる工夫

・三人の考え方の中で，一番共感する考えにネームプレートを貼ることで自分事として捉えてから話し合わせることによって，友達との共通点や相違点に気付かせ，多様な考えにふれさせる。

（2）物事を多面的・多角的に考えさせる方法を工夫することにより，自分についての考えを深めることができるのではないか。

【研究内容（2）】物事を多面的・多角的に考えさせる方法の工夫

・四人目の友達として，かしの木の下にいたら三人にどう伝えるかを考え，グループで意見交流することによって，多様な考えにふれ，本当の友達についての考えを深めさせる。

5　展開

（1）ねらい

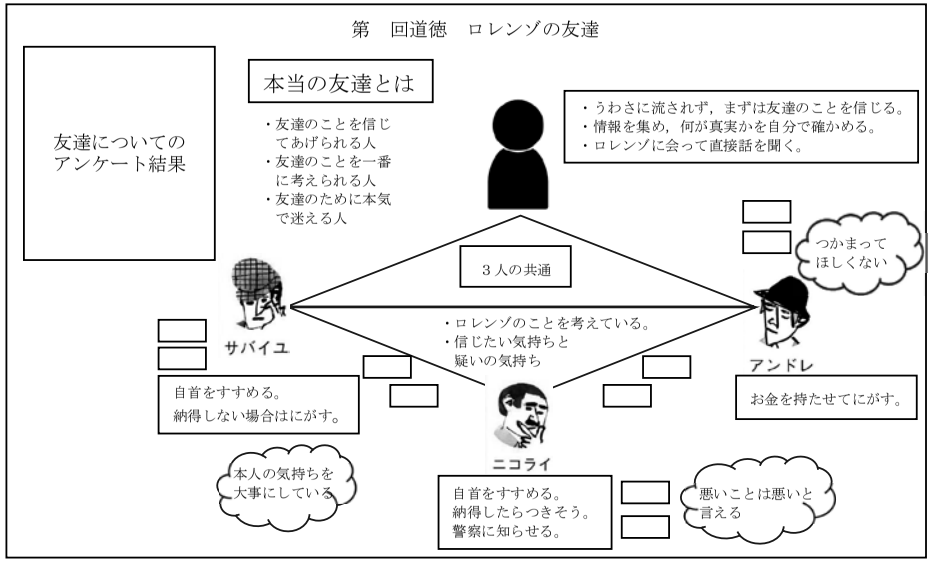
三人の登場人物の，友達に対する考え方の共通点や相違点を考えたり，四人目の友達として自分だったらどうするかを話し合ったりする活動を通して，よりよい友達関係を構築するためには，相手を信じることが大切であることに気付き，互いに信頼し，友情を深めようとする心情を育てる。

（2）展　開

	教師の働きかけ ○発問　◎中心発問　・補助発問	予想される児童の反応	※評価　・留意点 ○評価に対する支援
導入	○みなさんのアンケート結果を見てみましょう。 「あなたにとって，本当の友達とはどんな人だと思いますか。」 ・みなさんは，本当の友達関係ができていると思いますか。	・「何かあったら注意できる人」です。 ・「相談できる人」です。 ・自分の考え方と違う意見もある。 ・分からない。 ・そう思いたいけど… ・難しい。	・事前にとったアンケートの集計結果を掲示し，学級の「友達」に対する考え方を共有する。 ・自分達が考えている「本当の友達」像と実際の生活の中での友達像を比較させることで，本時の課題意識をもたせる。
展開	○今日のテーマを確認しましょう。 本当の友達とは		
	○友達として一番ロレンゾのことを思っているのは誰だと思いますか。 ・三人の友人の中で一番共感できる考え方のところにネームプレートを貼りましょう。	ニコライ ・悪いことは悪いとちゃんと言えているから。 ・正しい道を歩んでほしいと思っているから。 サバイユ ・本人の気持ちを大事にしているから。 ・ロレンゾを信じている感じがするから。 アンドレ ・友達として助けてあげたいという気持ちが分かるから。 ・つかまってほしくないという気持ちが自分と同じだから。	・本時で扱う「ロレンゾの友達」の資料は事前に読ませておく。 ・三人の登場人物の挿絵や名前，対応について板書しながら，それぞれの立場や考えを整理していく。 ・担当する児童の支援にあたる。（沼山） ・共感する場所にネームプレートを貼るように指示する。 ・三人の考え方のそれぞれのよさにも触れながら，選択した理由を全体で話し合わせる。 【研究内容（1）】三人の考え方の中で，一番共感する考えにネームプレートを貼ることで自分事として捉えてから話し合わせることによって，友達との共通点や相違点に気付かせ，多様な考えにふれさせたい。
	○三人の共通する思いは何ですか。	・ロレンゾのことを考えて迷っていること。 ・信じたい気持ちと疑っている気持ちがあるということ。	・三人の対応は違っても，根本にはロレンゾを思いやる気持ちがあることを押さえる。
	○かしの木の下で話し合ったことを三人が口にしなかったのはなぜでしょう。	・友達として正しい行動ができなかったから。 ・友達であるロレンゾを信じないで疑ってしまっていたから。 ・本当のことを言うとロレンゾを傷付けてしまうと思ったから。	・三人ともロレンゾに対して罪を犯したことを前提に悩んでいて，友達として信じるということを忘れていたことに気付かせる。
	◎自分が四人目の友達としてかしの木の下にいたら，三人に何と伝えますか。 ・自分の考えをノートに書きましょう。	・うわさに流されず，まずは友達のことを信じる。 ・情報を集め，何が真実かを自分で確かめる。 ・ロレンゾに会って直接本当	・黒板上に四人目を付け足し，自分事として捉えさせる。

	・グループの人の意見を聞き合いましょう。 ・発表しましょう。	のことを聞く。	【研究内容（２）】 四人目の友達として，かしの木の下にいたら三人にどう伝えるかを考え，グループで意見交流することによって，多様な考えにふれ，本当の友達についての考えを深めさせたい。
終末	○本当の友達とは，どんな友達のことをいうのだろう。	・友達のことを信じてあげられる人。 ・一番に友達のことを考えられる人。 ・何かあったときに，友達のために迷える人。	・自分の考えや学んだことを整理する時間を設ける。
	○今日の学習を振り返りましょう。	・自分もお互いに信頼し合えるような関係をつくっていきたいと思った。 ・疑うことよりもまずは信じる。そんな友達になりたいと思ったし，友達が困っているときは友達を一番に考えることを大切にしていきたい。 ・今は友達に何かあった時に自分も疑ってしまうかもしれないけど，将来的には，信じることを大切にして友達との関係をよりよくしていけるようになりたい。	※よりよい友達関係について考える。（ノート） ○何を書けばよいか迷っている児童には，板書を確認したり，グループで意見交流したことを振り返らせたりする。

6　板書計画



令和５年度　道徳教育　全体計画

外ヶ浜町立蟹田小学校

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・青森県学校教育指導の方針と重点
・町の教育方針

学校の教育目標

かしこく　にっこり　たくましく

学校や地域の実態と課題

・学校行事への参加が協力的であるが，偏りもある。
・教育に必要な人材や教育資源がたくさんある。

児童の実態

・素直で明るい。
・相手の気持ちを考えた言動や言葉遣いに課題がある。
・学校全体の課題を自分事として考えることに課題がある。

教職員や保護者の願い

・やさしく思いやりのある子
・善悪の判断ができる子
・最後までやり通す子

道徳教育の重点目標

・善悪を判断し，自らを律することのできる子どもを育てる。
・自分の目標をもって，その達成に向けて粘り強く努力する子どもを育てる。
・思いやりの気持ちをもち，親切にすることのできる子どもを育てる。

各教科

国語	お互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高めることで，道徳教育の基盤を築く。
社会	地域社会に対する誇りと心情を育て，自他の人格を尊重し，社会的義務や責任を重んじ，公正に判断しようとする態度や能力などの公民的資質の基礎を養う。
算数	見通しをもち筋道を立てて考え，表現する能力を育てることで，道徳的判断力を育成し，工夫して生活したり学習したりしようとする態度を育てる。
生活	自然を愛する心情を育てることで，生命を尊重し，自然環境を大切にする態度を育成する。
理科	自然とのかかわりに関心をもち自分のよさや可能性に気付くなど自分自身について考えさせ，生活上必要な習慣を身に付け，自立への基礎を養う。
音楽	音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を通して美しいものや崇高なものを尊重する心情を育てる。
図画工作	つくりだす喜びを味わうようにすることで，美しいものや崇高なものを尊重する心を育てる。
家庭	日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け，生活をよりよくしようとする態度を育てる。
体育	運動を通して，粘り強くやり遂げる，決まりを守る，集団に参加し協力するなどの態度を養う。
外国語	他国の言語や文化，他国の人と接する機会を通して，進んで他国の人々とつながり，交流活動を進めたりより親しくしたりしようとする国際親善の態度を養う。

道徳教育の推進体制

・校長の方針の下，道徳教育推進教師を中心として，全体計画及び年間指導計画を作成するとともに，校内研修を通して全教員の指導力を向上させ，道徳科授業の質の改善とともに道徳教育の充実を図る。

特別活動

学級や学校生活における望ましい集団活動や体験的な活動を，日常生活における道徳的実践の指導の機会とする。

〇学級活動
・自発的，自治的な活動により，望ましい人間関係の形成やよりよい生活づくりをしようとする態度などの道徳性を育成する。

〇児童会活動
・異年齢による望ましい人間関係の形成やよりよい学校生活づくりに参画する態度などの道徳性を育成する。

〇クラブ活動
・異年齢による望ましい人間関係の形成や個性の伸長，よりよいクラブ活動づくりに参画する態度などの道徳性を育成する。

〇学校行事
・望ましい人間関係，自律的態度，心身の健康，協力，責任，公徳心，勤労，社会奉仕にかかわる道徳性を育成する。

各学年の重点目標

一，二年	〇よいことと悪いこととの区別をし，よいと思うことを進んで行う。 〇自分がやらなければならない勉強や仕事は，しっかり行う。 〇身近にいる人に温かい心で接し，親切にする。
三，四年	〇正しいと判断したことは，自信をもって行う。 〇自分でやろうと決めたことは，粘り強くやり遂げる。 〇相手のことを思いやり，進んで親切にする。
五，六年	〇自由を大切にし，自律的に判断し，責任のある行動をする。 〇より高い目標を立て，希望と勇気をもち，困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く。 〇誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にする。

外国語活動

・他国の人や他国の言語について体験的に理解を深め，他国の文化に対して関心や理解を深め，より親しんでいこうとする心情を育てる。

道徳科の指導方針

〇特別の教科道徳と生活経験や諸教育活動との関連を図り，様々な体験活動を生かした授業の工夫に努め，道徳的な価値の自覚を深め，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育成する。
・問題解決的な学習，体験的行為や活動を適切に入れた学習など，多様な指導方法の工夫に努め，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育成する。
・道徳的な価値を自分との関わりにおいて考え，話し合わせることにより，児童の道徳的価値の内面化を促し，児童の道徳性をより一層豊かにしていく。
・情報モラル等，現代的な課題に関する指導の充実を図るとともに，異学年交流や体験活動を通し，相手を思いやる言動ができるようにする。

総合的な学習の時間

・主体的に判断して学習を進めたり，粘り強く考え解決しようとしたりする資質や能力，自己の目標を実現しようとしたり，他者と強調して生活しようとしたりする態度を育てる。

生活指導

・児童相互，児童と教師の心の結び付きを基調とし，基本的な生活習慣を身に付けた児童の育成に努める。
・生活目標をもたせ，日常の実践を通して学校生活の向上に努める。
・授業における生徒指導を充実させ，よりよく学校生活を送ろうとする態度を育てる。

家庭・地域社会・関係機関との連携

〇相互に理解を深め，交流を密にすることによって，学校と家庭・地域社会・関係機関が一体となって，児童の健全な育成に努める。
・参観日，二者面談，家庭訪問，各種だよりの活用
・地域の人材と施設の積極的な活用
・学校評議員との連携
・小中連携による行事への取り組みや，児童生徒の学習状況や生徒指導上の課題に等による情報交換
・こども園や学童教室，町教育委員会との連携

特色ある教育活動や豊かな体験活動

〇全教育活動において，道徳性の育成を図るために，社会奉仕体験活動や自然体験活動など豊かな体験の場を充実させる。
・人，もの，自然とのふれあいを重視した各教科及び外国語（活動），特別活動，総合的な学習の時間の学習との関連を図る。

学級・学校の環境の充実・整備

〇児童の豊かな心を育て，道徳的実践意欲を高めるような環境づくりをする。
・校舎，校庭の美化（縦割り清掃）
・言語環境の改善・充実

外ヶ浜町立蟹田中学校

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

完　了　報　告　書

（外ヶ浜町立蟹田中学校）

1　道徳教育に関する改善状況の概要

本校では、小規模校の強みを生かし、全職員での共通理解・共通実践を通して、道徳教育の充実に向けて取り組んできた。

今年度は、生徒の実態や保護者の願いを受け、「希望と勇気、克己と強い意志」「思いやり、感謝」「よりよい学校生活、集団生活の充実」を重点項目として、道徳教育を推進することとした。また、令和５年度東青地区中教研道徳部会研究主題「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める道徳教育」を受け、以下のことに重点を置き、研究方法を実践しながら道徳教育の抜本的改善・充実を図った。

（１）抜本的改善・充実のための重点

①　教育活動全体を通して、意図的・計画的な道徳教育を推進し、道徳的価値及び人間としての生き方について、広い視野から多面的・多角的に捉え、自覚を深めさせることで、道徳性の育成を図る。

②　豊かな体験活動や各教科等との連携を図るなど指導計画の工夫を行い、「特別の教科　道徳」の時間を充実させることで、内面における道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図る。

（２）研究方法

①　発達段階に応じた道徳の授業ガイダンスを実施し、豊かな体験活動や各教科等と内容項目との関連的指導を図った年間指導計画の作成、道徳掲示板の充実、ローテーション授業の実施等、全教員で共通理解・共通実践を通して、指導力の向上に努める。

②　学級経営を充実させ、多様な意見を受け止め、認め合う雰囲気を作り、

- 生徒に本時の主題に対する問題意識をもたせ、自分事として捉えて考えさせる工夫
- 他者との対話を手がかりにして、多面的・多角的な視点から考えさせる発問や学習形態の工夫
- 効果的なＩＣＴの活用
- 自らを振り返り、これからについて考える時間の確保

を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

③　生徒の学習状況を見取る評価の視点を明確にして、道徳の授業の中で道徳性につながっていく成長の様子を総合的に把握し、評価できるよう、ノートやワークシート、タブレットに保存された記述、発言、話合いの様子、自己評価や相互評価等、毎時間の評価情報を様々な方法で蓄積し活用する。また、チームによる評価を実践し、複数の目から生徒の学習状況を見取ることで、信頼性や妥当性を確保する。

その結果、次のような改善が見られた。

（１）年間指導計画を豊かな体験活動や各教科等との連携の視点から加筆修正しながら見直すことで、

道徳の授業や行事の振り返りの場面等を活用して、道徳的価値の理解を基に自己を見つめる機会を設定することができた。また、行事と関連した内容項目を実施要項に明記することで、日常的に道徳教育について考え、指導することもできた。

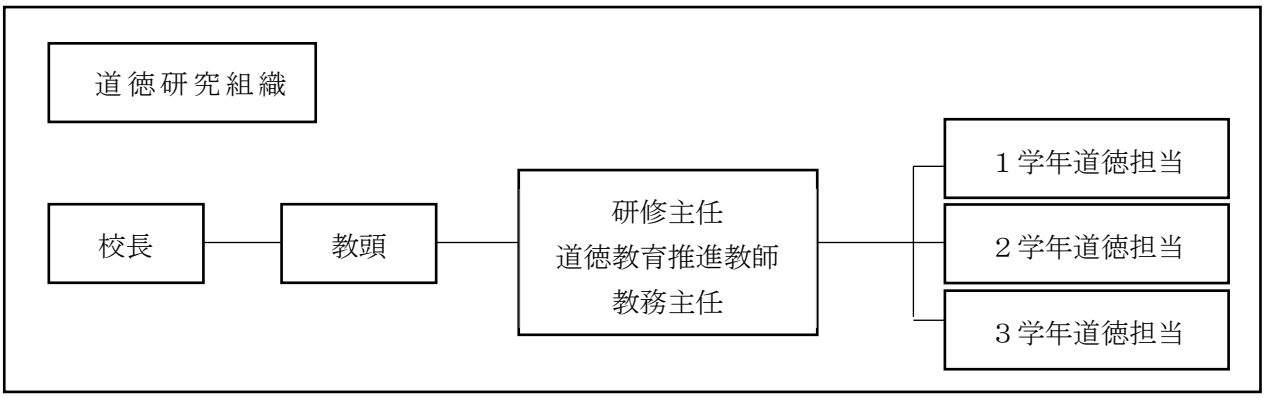
（２）第１回の道徳の授業において、各学年の発達段階に応じた授業開きを実施し、生徒と教員が道徳の授業の意義を共に確認した。これにより、自分なりの目標や姿勢を持って授業に臨む生徒や、教員の道徳の授業における質的転換の意識の高まりが見られた。

２　実施した研究内容

（１）研究体制や全体計画の見直し

①　研究体制の見直し

学校が組織体制として一体となって道徳教育を推進していくために、各学年に道徳担当教師を配置した。道徳推進教師が中心となり、報告・連絡・相談をし合い、学校全体で足並みを揃えて授業を行えるようにした。



②　豊かな体験活動や各教科等と内容項目との関連を図った指導計画の見直し

道徳の全体指導計画には、各教科と道徳教育の関連を記載し、全教科で道徳的価値を確認しながら学習を進めた。また、豊かな体験活動を年間指導計画に記載し、諸活動と道徳の授業を関連させ、教育活動全体で道徳的価値を確認しながら学習を進められるようにした。

（２）共通理解・共通実践を通した指導力の向上

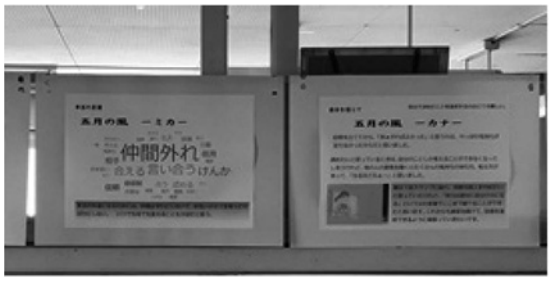
①　道徳の授業開きの実施

各学年の発達段階に応じた授業開きを実施し、道徳の時間で考えていきたいことや大切にしていきたい姿勢等を確認した。１学年では、道徳の答えは一つではなく、いろいろなところに答えがあり、様々な考え方がある。それを否定するのではなく、お互いの考えを受け入れようとする気持ちを大切にしていくことを「答えのない道徳の問題　どう解く？（ポプラ社発行）」を使用し、考えさせた。２学年では、「乗り違え受験生に新幹線温情停車」の新聞記事を活用し、ルールについて様々な考えを出し合った。多様な価値観や立場によって考え方や感じ方が違うことに触れ、それを受け入れながらも、自分の心の中で何が善いことで何が悪いことなのか、自分が好きな行為や嫌いな行為は何なのかをじっくり考えて、自分の価値観を育てていくことの大切さについて考えさせた。３学年では、１・２学年での授業開きを基に、卒業するまでに自分が育てたいと思う心について考え、伝え合い、その心を自由に表現する活動を行った。授業開きを行っ

たことにより、漠然とした気持ちで授業を受けるのではなく、生徒自身が自分なりにどのような気持ちで道徳の授業に臨みたいかを考える機会となった。また、教員も道徳の授業の重要性を再認識することができ、道徳の授業における質的転換の意識の高まりが見られた。

② 道徳掲示板の充実

授業で行った内容について振り返り、それを今後の自分の生活に生かそうとする意欲を喚起できるよう、授業で使用した掲示物や板書の様子、生徒の振り返りなどをまとめ、教室や廊下に掲示した。



【道徳掲示板】

③ ローテーション授業の実施

学年に所属する教員が２名体制のチームとして、授業者と評価者の役割を交代し授業を実践した。また、各学年の道徳の授業は曜日を変えて実施し、授業を見せ合うことで日常的に研修できるようにした。

（３）授業展開の工夫

① 生徒に本時の主題に対する問題意識をもたせ、自分事として捉えて考えさせる工夫

主体的・対話的な深い学びの実現のために、問題意識をもたせ、自分事として捉えさせる工夫や、興味・関心、解決への意欲を高める必要性を感じた。そのため、導入においてこれまでの体験を出し合う場を設定したり、事前アンケートを提示したりすることで、道徳的諸価値の視点から意識をもたせる工夫をした。自分事として捉えさせる工夫としてＩＣＴの活用も効果的であった。事前アンケートの結果をテキストマイニングで示すことで全体の思考の傾向が分かりやすく可視化されるため、生徒の意識を焦点化することができた。また、議論の入り口として活用することもでき、展開段階においても効果的に提示することによって、人間理解を深め、自我関与を促すことにも有効であることが分かった。

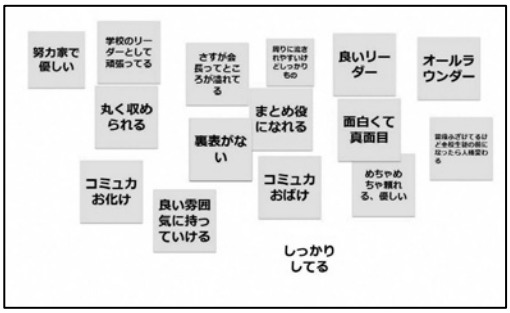
② 多面的・多角的な視点から考えさせる発問や学習形態の工夫

発問においては、考える必然性や切実感のある発問、自由な考えを促す発問、物事を多面的・多角的に考えるきっかけとなる発問など、教材の登場人物の心情理解のみにならないようにした。また、指導書の発問を参考にしながら、生徒の実態に応じて発問を変えて授業を実践した。話合い活動では、一斉による学習だけではなく、ペアや少人数グループ、コの字隊形などを、広い視野から多面的・多角的に捉え、自覚を深めさせる手段の一つとして必要に応じて取り入れた。

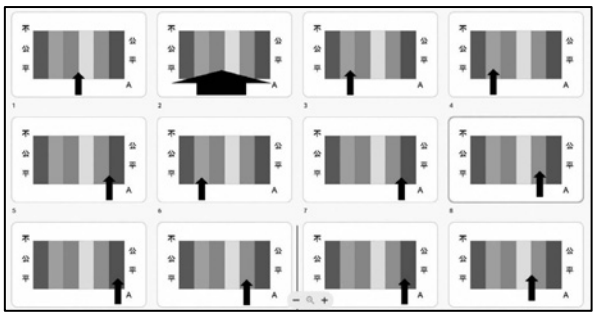
③ 効果的なＩＣＴの活用

毎時間必ずＩＣＴを使うことを目的とするのではなく、より効果的な学習となるようにするための手段として活用することを意識した。授業中の発言がほとんどない生徒や、自信がなく発表できない生徒、表情に表れにくい生徒もいる。全員に考えを持たせる工夫として一人一台端末の付箋機能を活用することで、他者の意見を参考にながら自分の考えを書き込み、文章ではなくキーワードで書き込むことができるため、発表するときと比べ、全ての生徒が自分の考えを素直に表現することができた。名前を記入させる場合と匿名の場面とを使い分けることで、よ

り効果的に活用することもできた。また、画用紙で作成していた心情メーターをデジタル化し、全員の結果を電子黒板に映し出すことで素早く共有することができ、意図的な指名や、考えを広めて深めるきっかけとしても有効に活用することができた。



【一人一台端末の付箋機能の活用例】



【心情メーターのデジタル化】

④　自らを振り返り、これからについて考える時間の確保

終末段階において、自己の生き方について考えを深めるために、振り返りをノートに記述させ、自らを振り返るための時間と空間を確保した。他者との対話を基にじっくりと自己と向き合うため、書く時間を１０分程度確保することを意識した。自分の考えを言語化することが、これからの生き方への課題や希望につながり、生徒一人一人の成長を見取るために有効であると考える。

（４）評価方法の工夫とチーム評価

ノートやワークシート、タブレットに保存された記述、発言、話合いの様子、自己評価や相互評価等、毎時間の評価情報を様々な方法で継続して蓄積し、指導と評価の一体化に努めた。また、信頼性や妥当性を確保するために、複数の目から生徒の学習状況を見取ることのできるチーム評価を実践した。Ｔ１は授業者として、Ｔ２は評価者として二人体制で授業を行った。評価者は生徒のつぶやきを拾い、表情や仕草を観察するなど、評価に役立てるための補助に入り、評価シートに記入し蓄積した。生徒を複数の目で見取ることができることはもちろんのこと、授業後に教員同士で授業の振り返りや生徒の様子について話す機会が自然と増え、授業改善にもつながった。

【２人体制での授業の様子】

【評価シート】

（５）校内研修の実施

８月２１日に秋田公立美術大学の毛内嘉威教授を招き、「考え、議論する道徳科の授業づくり」をテーマに校内研修を行った。道徳科で求められる学びから道徳科のユニバーサルデザインまで、多くの視点から授業づくりについて学ぶことができた。また、価値観は小・中学校の９年間で育てていくため、発達段階に応じて育てなければならない価値観を明確にしながら授業づくりをする重要性を痛感した。演習では、小学校の道徳の教材「はしの上のおおかみ」を使用し、どのよ

うな中心発問が考えられるかグループで話し合った。一つの教材でも、様々な立場や注目したい言葉から発問を考えると複数の授業展開が考えられ、発問についても拡散的か収束的かを意図的にしかける工夫ができることを学んだ。小学校の教材を用いて中学校ではどのような授業展開ができるかを話し合う演習では、中学生にどのような発問をするかを考える活動を通して、どこまでを小学校で考え、どこまでを中学校で考えなければいけないのかを授業者が理解する必要があると感じた。それによって発問が大きく変わること、生徒の価値観の広がりが違ってくることが分かった。これに加え、全ての発問に対して児童生徒の予想される反応を考えて実践することの大切さや、物事を多面的・多角的に考えるために、授業者として児童生徒の意見をよく聴き、対話のある授業を実践する「ｔｅａｃｈ（ティーチ)」から「ｃａｔｃｈ（キャッチ)」の心構えについても学ぶことが多かった。

【校内研修の様子】

（６）小中連携の取組

８月に行われた校内研修に加え、小学校の研究授業を参観し、授業づくりにおける交流を行った。特に、児童の考えや心の動きを分かりやすく可視化する板書の工夫について学ぶことが多かった。

（７）研究授業及び研究協議会の実施

①　第１回研究授業（７月１２日実施）

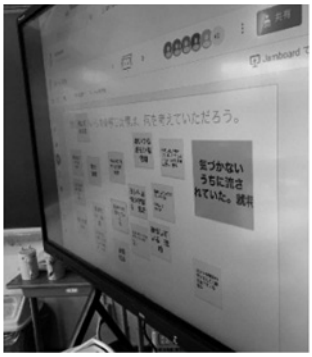
２学年「公正、公平、社会正義」Ｃ－（１１）を主題とし、教材「ヨシト」（日本文教出版）を用いて研究授業を実施した。研究協議会では、以下のような意見が出された。

- 普段の学校生活で起こり得る場面についてのデモンストレーションから始まり、自然な形で授業を始めることができていた。
- テキストマイニングの活用がとても参考になった。ただ、ジャムボードの活用方法はもっと工夫することができたかもしれない。
- 手立ての種類が豊富で、提案性のある授業だった。板書が丁寧で、生徒の考えを可視化し、整理されていた。
- 展開が速かったため、発問の精選が必要だと感じだ。発問の数を減らし、その分を対話や自我関与の部分に時間を使えればよいのではないか。
- 教員と生徒の関係が良好で、安心・安全な環境がつくられていると感じた。
- 生徒の考えに対する教員の「なるほど」等の反応がよかった。指名による発表が大部分を占めたが、全員複数回発表することができていた。指名されなくても発表できることを目標に、今後他教科でも取り組んでいきたい。

研究協議の最後に次のように指導・助言をいただいた。

道徳性アセスメントから生徒の道徳性の状況や道徳指導の状況を把握し、生徒の内面に近づく生徒理解がなされていた。事前アンケートの結果からどのようなことが起こるかをあらかじめ想定し、それに対する多彩な手立てがあったことがよかった。ただ、発問の数が多かった。自分との関わりの中で道徳的価値に迫る自我関与をするためには、自己内対話が重要である。自己内対話を通して考えが深くなっていくが、展開が速すぎた。じっくりと考えさせることが大切で、そのためには発問の精選が必要である。資料の中でしか自我関与ができていなかったため、いかに資料から離れるかが重要になってくる。生徒が自分の経験や体験を通してどうだったのかを語る場面を大切にしてほしい。また、今日の授業で一番のキーワードになったであろう「つられる」に触れることがなかったため、多面的・多角的に物事を考える最大のキーワードや発言を逃さない教員の意識や視点も重要である。

チーム評価はよい取組だと思うが、「見取り」と「評価」は異なるため、この見取りができていればこの評価につながるといったように、見取りの視点と評価の視点が密接に結び付くことが必要不可欠である。



【第１回研究授業の様子】

② 道徳教育研究協議会における公開授業（９月２６日実施）

９月２６日に公開授業を開催した。参加した東青管内の小・中学校教員に対し、本校の道徳教育の取組を説明し、１学年「公正、公平、社会正義」Ｃ－（１１）を主題とした教材「公平と不公平」（日本文教出版）を用いて研究授業を実施した。研究協議会では、以下のような意見が出された。

・普段から活発な意見発表が行われている様子がうかがえた。しかし、教員主導の意見交流の場面が多かったように思うので、生徒同士の意見交流ができる手立てがあると更に深まるのではないか。
・導入段階で公平と平等の違いをスライドで示したことで、これから考える道徳的価値への方向性に意識が向けられていた。
・展開前段階において活用した心情メーターは、生徒全員に考えをもたせる点で効果的であり、電子黒板に全員分を映し出すことで他の生徒の考えを一覧できる工夫もよかった。
・心情メーターを基に意見交流ができるため効果的なＩＣＴの活用だと思ったが、他の生徒の考えを聞いて、メーターを移動できる場面があってもよかった。両端の生徒だけではなく、中央よりの生徒の考えを掘り下げることができれば、さらに議論が深まるのではないか。
・「公平」について多面的・多角的に考えさせる手立てとして、中心発問に自分と相手だけではなく、第三者の視点を取り入れていることが有効だった。
・Ｔ２の役割として、評価だけでなく板書を行ってもよいかもしれない。

研究協議の最後に次のように指導・助言をいただいた。

時間の確保のため、読み物資料を先渡しし、あらかじめ心情メーターで自分の考えを表明させていたことは、今回の道徳の授業においては効果的であった。また、事前アンケートの結果から「公平」と「平等」を混同していることに気付き、導入スライドで生徒を同じスタートラインに立たせる工夫も効果的であった。場面ごとに短くて考えやすい発問が用意されており、中心発問では理由を、価値理解の発問では手立てを問うものになっていた。ただ、中心発問三つで一つの構成のため、テンポよく進め、生徒の気付きから発言をつなぎ自覚を深めさせたい。そのため、発表という形ではなく、もっと自由に発言できる形や雰囲気づくりが大切である。

チーム評価については、参観者からの指摘やＴ２からの評価を得ることも重要である。授業者がＴ２から具体的なフィードバックを得るために、授業のねらいとそれに迫った生徒の具体的な姿を共有する必要がある。

【道徳教育研究協議会における公開授業の様子】

③　第２回研究授業（外ヶ浜町学教教育振興会　小中交流学習会　１１月）

３学年「勤労」Ｃ－（１３）を主題とし、教材「失った笑顔を取り戻す」（日本文教出版）を用いて研究授業を実施した。参観者から以下のような意見が出された。

・小学生だった頃からの成長が授業を通して感じられた。
・Ｔ１が授業者、Ｔ２が板書を書くというように分担されていたのがよかった。
・事前アンケートを最後に示し、問い直すことで、生徒自身も自分の考えを変化を見ることができたのではないか。
・主発問がさらっと流れてしまっていたので、ペアやグループワーク、揺さぶる発問などで、もっと時間をかけて議論した方がよい場面だったと思う。
・グループで意見交流をした際、考えを一つに絞って発表させるのはもったいないと感じた。
・教員による説話の場面において、生徒が顔を上げて聞き入っていた姿が印象的だった。身近な人の経験が一番の素材だと思う。

【道徳教育研究協議会における公開授業の様子】

３　実施経過とその体制

月	取組の内容	備考
４月	・校内研修計画についての共通理解 ・小中連携推進会議① ・全体計画、年間指導計画の見直し	
５月	・道徳教育推進教師研修講座（県総合学校教育センター）	
６月	・生徒アンケートの実施・分析① ・小中連携推進会議② ・小学校要請訪問授業参観 ・授業研究①指導案検討会	・ＨＵＭＡＮ ・ＢＥＩＮＧ
７月	・県道徳教育推進協議会への参加①（７／３） ・授業研究①（協議会含む）（７／１２） ２年１組授業「ヨシト」 （指導・助言：東青教育事務所　指導主事　佐々木紀人氏）	・道徳教育推進教師 ・指導主事要請
８月	・校内研修 （講話：秋田公立美術大学　教授　毛内嘉威氏） ・指導案検討会（道徳教育研究協議会）	・講師招聘
９月	・道徳教育研究協議会（９／２６） １年１組授業「公平と不公平」 （指導・助言：東青教育事務所　指導主事　佐々木紀人氏）	・指導主事要請
１０月	・道徳教育研究協議会　小学校公開授業参観	
１１月	・第５７回全日本中学校道徳教育研究大会北海道函館大会（１１／１～２）公開授業（全学年）、分科会参加 ・研究授業（外ヶ浜町学教教育振興会小中交流学習会） ３年１組授業「失った笑顔を取り戻す」 ・学校評価（保護者）アンケートの実施・分析	
１２月	・生徒アンケートの実施・分析② ・小中連携推進会議③ ・研究のまとめ	・ＢＥＩＮＧ
１月	・県道徳教育推進協議会への参加②（１／１６） 結果報告 ・道徳教育パワーアップ協議会（１／２６） 実践事例発表	・道徳教育推進教師
２月	・研究の報告 ・研究紀要の作成	

4　取組の成果と課題

（1）道徳教育の抜本的改善・充実に係る成果の概要

①　研究体制や全体計画の見直しによる成果と課題

年間指導計画や研究体制の見直しを通して、学校全体で足並みを揃えて授業を実践できるような環境を少しずつ整えることができた。諸活動と道徳の授業を関連させることで、教育活動全体道徳教育を行っていくという教員の意識を高めることができた。授業においては、内容項目「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」Ｃ－（１６）と全校で取り組んでいる『郷土芸能「風太鼓」の継承』を関連付けて行った結果、風太鼓を披露した際の気持ちや声援を送ってくださる地域の方の気持ちを思い返しながら、「伝統文化、郷土愛」について考えを深めることができた。今後も年間指導計画を加筆修正しながら見直していきたい。また、日常的に道徳教育について考える環境を整えるために、掲示物等を活用して各学年の実施状況を確認できるようにしていきたい。

②　授業開きの成果

授業開きを通して、道徳の時間ではどのようなことを考えていくのか、どのような態度で授業に臨んでほしいかなど、学級経営の視点も踏まえながら全体で確認したことで、漠然とした気持ちで授業を受けるのではなく、生徒自身が自分なりの目標を持つことができた。また、多くの意見を出しやすい話合い活動を行うことで、様々な考え方があること、他の生徒の考えを聞いて気持ちが揺れることもあること、立場が変わると考えも変わること等に自然に気付かせることができた。

③　授業展開の工夫による成果

校内研修や授業実践、研究協議を積み重ねることで、本校の目指す道徳教育を具現化するために共通実践するべき内容が明らかとなった。

・本時の道徳的価値を明らかにするために、学習指導要領で内容項目を確認し、指導の要点を理解する。
・育てたい価値観や生徒の実態から「何を考えさせ、何を学ばせたいか」を決める。
・授業者と評価者の間で、授業のねらいとそれに迫った生徒の具体的な姿を共有する。
・自分事として捉えさせる工夫をする。
（体験談を出し合う場の設定、アンケートの提示、道徳的テーマの提示等）
・物事を広い視野から多面的・多角的に考える手立てとして
①　ペアや小グループでの話合い活動を効果的に行い、対話のある授業を実践する。
②　教師の発言よりも生徒の思考する時間を多く確保する意識を持つ。
③　発問や問いかけを精選する。
④「行動」を問うことに終始せず、そう考えた根拠を共有するようにする。
・２５分程度で教材の内容から離れ、道徳的価値に照らし合わせて考えを深める時間を確保する。

授業者は評価者からの振り返りに加え、以上の点について自らの授業を振り返り実践を積み重ねることで、授業づくりの向上につながると考える。

④　評価方法の工夫とチーム評価における成果と課題

ノートやワークシート、タブレットに保存された記述、発言、話合いの様子、自己評価や相互評価等、毎時間の評価情報を様々な方法で継続して蓄積することができた。ノート記述を確認したり話合いや発表の様子を確認したりするなど、これまでの評価方法と大きく変わらない部分が多いが、チーム評価に取り組んだことで、評価する視点が養われたことや評価する視点

を意識して生徒の学習状況を見取ることができるようになったことが成果として挙げられる。多面的・多角的に考えるとは、この授業においてどういうことを指すのかを考え、生徒の価値観や価値理解が深まるように授業を展開した。また、評価者として客観的に他の教員の授業を見ることで、生徒によって成長の見取りに差が生じていることに気付いたり、授業者とはまた違う視点で見取りをしたりと、普段より余裕をもって評価することができた。なにより、評価者として授業を参観する機会が増えたため、授業後に生徒の様子や授業の振り返りについての会話が増え、授業改善につながったことも大きい。

課題は二つ挙げられる。一つ目は、チーム評価をより有効にするために打ち合わせの時間を確保することである。授業者と評価者の間で授業のねらいとそれに迫った生徒の具体的な姿を共有しなければ、見取りに差が生じてしまうことになる。授業者から指導観をしっかりと伝える時間を確保する必要がある。二つ目は、見取りの視点である。研究協議で助言をいただいたように、今後は見取りの視点と評価の視点が密接に結び付いているのかを検証し改善していきたい。また、評価シートを活用するにつれて、見取りのポイントだけでは評価が難しいという指摘もあったため、見取る際のキーワードを示すなどの工夫し、より分かりやすい評価シートを作成していきたい。

⑤　研究授業及び研究協議会の実施による成果

研究授業や研究協議会を通して、普段の授業づくりにおいても「自分事として捉えさせる工夫」「物事を多面的・多角的に考えさせる工夫」を意識するようになってきた。また、研究協議会においては、他校の教員と発問や手立てに関する意見交換が活発に行われ、道徳教育におけるお互いの情報を交換するなど、有意義な機会となった。

（２）調査から見られる成果と課題

①　道徳の重点目標に関する項目についての道徳性検査にみる生徒の傾向

ア「希望と勇気、克己と強い意志」

【検査名】教研式　道徳性アセスメント　ＢＥＩＮＧ（図書文化社）　（単位%）

項目	学年	実施月		いつも している	だいたい している	あまり していない
目標に向かう努力	１年	全国		４６	４５	９
		本校	６月	２７	６４	９
			１２月	３６	６４	０
	２年	全国		４１	４６	１３
		本校	６月	４６	３１	２３
			１２月	３１	５４	１５
	３年	全国		４０	４８	１２
		本校	６月	２１	６４	１４
			１２月	１４	６４	２１

【検査名】努力目標自己評価（本校独自）　※太字は、C・Dの合計が２０％以上の項目　（単位％）

授業では課題に粘り強く取り組み、最後までやり抜いている。					
学年	実施月	A	B	C	D
１年	７月	４０	６０	０	０
	１１月	４２	５０	８	０
２年	７月	５４	３８	０	８
	１１月	１５	７７	８	０
３年	７月	３３	４７	**１３**	**７**
	１１月	５６	２５	１９	０

（単位％）

継続的に毎日の家庭学習に取り組み、学習内容の定着に努めている。					
学年	実施月	A	B	C	D
１年	７月	０	８０	**２０**	**０**
	１１月	８	５８	**３３**	**０**
２年	７月	２３	４６	**１５**	**１５**
	１１月	２３	６２	８	８
３年	７月	１３	３３	**３３**	**２０**
	１１月	３１	１９	**４４**	**６**

［概況］

「希望と勇気、克己と強い意志」について、「いつもしている・だいたいしている」の割合を合わせると、６月に比べ１２月の結果が上回っている。３学年は本校独自の努力目標自己評価の「授業では課題に取り組み、最後までやり抜いている。」の評価が総合的に高くなっている。各学年ともに道徳の授業で目標の実現には困難や失敗がつきものであり、それを乗り越えることの必要性や自分なりの乗り越え方を考えてきた。また、３学年はキャリア教育の進路と関連付け、目標に向かって努力する姿勢の大切さを継続して伝えていることがこの結果につながったと考える。しかし、「いつもしている・だいたいしている」の割合のみが全国平均を下回っていることや日々の学校生活における生徒の様子から、今後の課題として継続した取組が必要と考える。

イ「思いやり、感謝」

【検査名】教研式　道徳性アセスメント　ＢＥＩＮＧ（図書文化社）　（単位％）

項目	学年	％		いつも している	だいたい している	あまり していない
困っている人への声かけ	１年	全国		５４	３９	７
		本校	６月	５５	２７	１８
			１２月	５５	４５	０
	２年	全国		５０	４２	８
		本校	６月	５４	３８	８
			１２月	４６	３８	１５
	３年	全国		４７	４４	９
		本校	６月	５０	４３	７
			１２月	５７	２９	１４

【検査名】努力目標自己評価（本校独自）　（単位％）

集団生活を通して、自他を大切にし、優しく思いやりをもって自分や集団の成長を目指している。					
学年	実施月	A	B	C	D
１年	７月	４０	６０	０	０
	１１月	５０	４２	８	０
２年	７月	３８	４６	１５	０
	１１月	４６	４６	８	０
３年	７月	７	８０	１３	０
	１１月	３１	６３	６	０

［概況］

「思いやり、感謝」について、「いつもしている・だいたいしている」の割合を合わせると、１学年のみ６月に比べ１２月の結果が上回っている。しかし、学級風土「協力」の「困っている友達がいたら助けてあげる」の項目は、全学年において６月よりも１２月の結果が上回っており、「信頼し合って協力している」の項目は、２・３学年において、６月よりも１２月の結果が上回っている。これは本校独自の努力目標自己評価の結果から見ても言えることである。１学年は６月の道徳教育アセスメントにおいて、気持ちは望ましい傾向にあっても行動に出にくい学級であるという分析がなされている。そのため、生徒の道徳的な望ましい判断を積極的に褒め、一人の実践を学級全体のものとして捉えて定着させていく必要がある。２学年は、様々な教育活動を通して「思いやり、感謝」を考える場面を設定し、振り返りを繰り返したことがこの結果につながっていると考える。３学年は、最高学年として諸活動の先頭に立ち、多くの場面で関わった様々な人への感謝の気持ちを述べる機会があったことが、よい影響を与えたと考える。

ウ「よりよい学校生活、集団生活の充実」

【検査名】努力目標自己評価（本校独自）　※太字は、Ｃ・Ｄの合計が２０％以上の項目　（単位％）

（学級において）話合いをもとに、よりよい学級を目指して係活動に励んでいる。					
学年	実施月	A	B	C	D
１年	７月	５０	４０	１０	０
	１１月	４２	５８	０	０
２年	７月	４６	４６	８	０
	１１月	５４	４６	０	０
３年	７月	２０	８０	０	０
	１１月	３１	６３	６	０

（単位％）

（交友会活動において）話合いをもとに、よりよい学校を目指して交友会活動に励んでいる。					
学年	実施月	A	B	C	D
１年	７月	３０	４０	**３０**	**０**
	１１月	２５	５８	１７	０
２年	７月	３１	６２	８	０
	１１月	５４	４６	０	０
３年	７月	５３	４０	７	０
	１１月	３１	６９	０	０

［概況］

「よりよい学校生活、集団生活の充実」について、本校では学級や学校の一員であるという所属感を促す工夫が求められている。係活動や生徒会活動を通して、個人の力が集団の力につながることやチームとして取り組んだからこそ達成できること等を積極的に指導していきたい。そして、自分の利益だけではなく、協力し合って、集団生活の向上に向けて努力できる生徒を育成していく。

② 道徳の授業に対する生徒の傾向（１２月実施）

【検査名】教研式　道徳性アセスメント　ＢＥＩＮＧ（図書文化社）

◇　道徳の授業に対して　（単位%）

項目	学年	実施月		よくある	ときどきある	あまりない
素直に発言している	１年	全国		３５	４１	２４
		本校	６月	５５	４５	０
			１２月	５５	３６	９
	２年	全国		３４	４２	２４
		本校	６月	６２	３８	０
			１２月	６９	２３	８
	３年	全国		３８	４０	２２
		本校	６月	７１	２１	７
			１２月	５０	４３	７

（単位%）

項目	学年	実施月		よくある	ときどきある	あまりない
自分のことを振り返り深く考える	１年	全国		３８	４４	１８
		本校	６月	４５	４５	９
			１２月	４５	３６	１８
	２年	全国		３５	４３	２２
		本校	６月	３８	５４	８
			１２月	４６	３１	２３
	３年	全国		３６	４３	２１
		本校	６月	２１	７１	７
			１２月	４３	４３	１４

［概況］

「素直に発言している」について、「よくある・ときどきある」の割合を合わせると６月、１２月ともに全ての学年で全国平均を上回っている。「自分のことを振り返り深く考える」については、「よくある・ときどきある」の割合を合わせると、３学年は全国平均を上回っているが、１・２学年では６月は全国平均を上回っているが、１２月はほぼ全国平均と同じという結果になった。以上のことから、道徳の時間では自分の素直な気持ちを述べたり、自分のことを振り返って考えたりすることができていると思われる。しかし、いずれの項目も６月と１２月を比べると「あまりない」と答えた生徒の割合が高くなっており、今後の授業づくりにおいて、安心して発言できる環境づくりをし、自分のことを振り返り深く考えることができるような手立てを講じていかなければならない。

③　道徳性アセスメントからみえる学級経営の課題

【検査名】教研式　道徳性アセスメント　ＢＥＩＮＧ（図書文化社）

◇　学級風土について　（単位％）

学年	実施月		とても そう思う	だいたい そう思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
１年	全国		３３	４９	１５	3
	「受容」	６月	２７	５９	１４	0
		１２月	１４	５９	１４	2
	全国		４３	３９	１５	3
	「協力」	６月	３９	４８	１１	2
		１２月	２７	５２	１８	2
	全国		４１	４１	１５	3
	「自律」	６月	３４	４８	１６	2
		１２月	２３	４８	２３	7
２年	全国		２９	５０	１８	3
	「受容」	６月	２１	３９	３７	4
		１２月	１２	５０	３３	6
	全国		３６	４４	１７	3
	「協力」	６月	１２	６４	１９	6
		１２月	１３	６４	１９	4
	全国		３３	４６	１８	3
	「自律」	６月	１７	５０	２７	6
		１２月	２３	４６	２９	2
３年	全国		３２	５０	１５	3
	「受容」	６月	5	４７	３８	１１
		１２月	１１	４７	３８	5
	全国		３９	４３	１５	3
	「協力」	６月	１６	４１	２７	１６
		１２月	２２	４８	２７	4
	全国		３６	４４	１６	4
	「自律」	６月	１３	３８	３４	１４
		１２月	１６	５６	２５	4

［概況］

２・３学年は、「とてもそう思う・だいたいそう思う」の割合を分析すると、６月よりも１２月の方が高くなっていることが分かる。しかし、全国平均と比較すると、１学年の「受容」以外の項目全てにおいて全国平均を下回っている。明るく素直で、他の学年と協力して学校生活を送る生徒が多い反面、同学年の人間関係においては、幼少期からほとんど変わらない人間関係の中で生活しているため、広がりがなく固定化しているという実態がある。トラブルの改善やよりよい人間関係づくりの面においては、諦める傾向や悩みや不安を抱える生徒も多く見受けられる。授業中に自分の思ったことや感じたことを話したり考えたりする道徳の授業では、授業づくりはもちろん重要だが、生徒同士・生徒と教員の信頼関係、学級の雰囲気も重要である。小規模校故の

生徒の実態もあるが、小規模校だからこそ取り組めることもある。学年の枠を超えて全教員で関わり合い、学級経営を充実させ、多様な意見を受け止め、認め合う雰囲気づくりに努めていきたい。

④　道徳性アセスメントからみえる地域・家庭との連携の課題

◇　道徳の授業に対して　（単位%）

項目	学年	実施月		よくある	ときどきある	あまりない
学んだことを家族と話す	１年	全国		２０	３２	４８
		本校	６月	９	４５	４５
			１２月	１８	２７	５５
	２年	全国		１５	２８	５７
		本校	６月	２３	３１	４６
			１２月	８	１５	７７
	３年	全国		１２	２８	６０
		本校	６月	７	７	８６
			１２月	０	２１	７９

［概況］

「学んだことを家族と話す」において、全ての学年で全国平均を下回り、望ましくない結果となっている。研究授業については、該当学年に関わらず全ての家庭に公開しているが、現状として参観する家庭は少ない。学校・家庭・地域で生徒の豊かな心を育んでいくためにも、普段の道徳の授業の様子や生徒の考えなどを学年だより等で積極的に発信し、道徳の授業で学んだことを家族と話すきっかけづくりを推進していきたい。

第２学年　道徳指導案

日　時　令和５年７月１２日（水）
対　象　２年１組（男子１０名　女子４名　計１４名）
　　２年２組（男子１名）
指導者　教諭　大川　真里子
　　講師　上條　晃

１　主題名　いじめへの公正な態度

２　資料名　「ヨシト」
　　出典　『あすを生きる２』（日本文教出版）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

本主題は、内容項目Ｃ「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」をねらいとしている。「正義や公正さ」を重んじるとは、私心にとらわれず、正しいと信じることを自ら積極的に実践しようと努めることである。また、「誰に対しても公平に接する」とは、偏ったものの見方や考え方を避け、自他を尊重し、分け隔てなく等しく他者と関わることである。これらは、さまざまな個性を認め合い、一人ひとりが安心して生活するために大切な姿勢である。

中学生になると、社会のあり方についても目を向け始め、現実の社会がもつ矛盾や課題に気付き、理想を求める気持ちや正義感も強くなってくる。公平に接するためには、偏ったものの見方や考え方を避けるように努めることが必要であり、好き嫌いの感情があってもそれにとらわれず、他者に偏見をもたないように努めることが大切である。そして、自分と同様に他者も尊重し、相手の状況や立場を考慮しながら、誰にでも分け隔てなく公平に接し続けようとすることが重要である。しかし、中学生の時期は自己中心的な考えや不公平な態度をとり、他者を傷つけてしまうことも少なくない。また、周囲の目を意識し、不公正があっても、多数の意見に同調したり傍観したりするだけで、制止することができないこともある。そうした自分の弱さに向き合い、同調圧力に流されないで自分の意思を強く持つことや、正義と公正を重んじる立場から、道徳上どのような問題があるかを考えて、その解決に向けて協働して話し合うことが求められる。

（２）生徒について

本学年は男子１１名、女子４名の少人数学級である。６月に行った教研式道徳教育アセスメント BEING の調査結果によると、本学級では、「共感する力」「振り返る力」「前向きにとらえる力」はおおよそ全国的な傾向と同じといえるが、「前向きにとらえる力」がやや低い傾向となった。このことから、「相手と心を通わせることや、よりよくなるためにいかに生きるかを考え、自分を見つめ直すなどの自己理解を促せるとよい」との結果であった。また、学校生活の自己チェックにおける「分け隔てのない関わり【公正・公平】」については、「いつもしている」「だいたいしている」を合わせた生徒の割合が全国平均よりも下回っている。道徳の授業にどの程度生徒が積極的に取り組んでいるかについては、８項目のうち「問題解決する方法を考える」のみ全国平均よりやや低い結果となり、「素直に発言している」と回答する割合が多いことから、全体的に見て、道徳の授業には積極的であると言える。

人間関係においては、小学校からの人間関係が固定化され、人間関係に広がりがなく、多様な意見や価値観に触れる機会が限られているという実態があるためか、不安や悩みを抱えている生徒が多い。男女の仲がよくないと感じる生徒も多いが、「男女の仲が悪いのは嫌だ」「男女平等な学級にしたい」「自己中心的じゃなくてみんなのために行動できる学級にしたい」「楽しい学級にしたい」など、現状を変えていきたいという思いも感じられ、運動会や中体連夏季大会壮行式などの行事を通して、みんなで何かをやり遂げるという経験を重ねることで少しずつ成長してきた。しかし、自己中心的な言動をして相手を傷つけてしまったり、好き嫌いの感情から不公平な態度をとってしまい、その態度に流されてしまう生徒も少なくない。また、周りの反応や態度が不公正を助長させている場面も見られるため、みんなが気持ちよく生活するためには、周りの反応や態度も重要であることを伝えていきたい。

アンケートの結果　（１３名回答）

1	あなたは差別や偏見を受け、苦しんだり悲しんだりした経験はありますか。	ある　３名　ない　１０名
2	あなたは誰のことも差別することなく、同じような態度で公平に接することは大切だと思いますか。	思う　９名　思わない　４名
3	あなたは誰にでも同じような態度で公平に接することができていますか。	できている　できていない ９０％　－　１０％（1名） ８０％　－　２０％（2名） ７０％　－　３０％（1名） ６０％　－　４０％（4名） ５０％　－　５０％（2名） ３０％　－　７０％（1名） ０％　－　１００％（2名）
4	あなたは誰にでも同じような態度で公平に接することができないとき、どのようなことが原因でできていないと思いますか。	・周りにつられてやってしまう。 ・男子同士で固まっているとき。 ・相手が嫌いな人や苦手な人。 ・人によって性格も何もかも違うから。 ・腹が立つことがあったとき。 ・その人が嫌いだから。 ・真実が分からないとき。 ・男子と女子の話し方の違い。 ・嫌なことを言った相手に冷めた態度をとることがある。 ・男女の差別をしてしまっているから。

以上のアンケート結果から、誰に対しても同じような態度で公平に接することが大切だと思う人と、そう思わない人がいるということが分かった。また、様々なことが要因で、誰にでも同じような態度で公平に接することができないという実態も分かったが、これは中学生にとってはよく見られることでもある。人間には弱い部分があることを押さえながら、自分本位な行動が他者にどのような影響をもたらすかを考えさせていきたい。また、誰のことも差別することなく、同じような態度で公平に接することは大切だと思わない生徒もいるため、自分が不公平な扱いを受けたらどう感じるか、不公平な扱いを見た人はどう思うかなど、様々な視点から考えさせる必要がある。本資料を通して、学校生活などを振り返り、自他の中に自分本位で偏った見方や考え方がある部分や周りに同調してしまう弱さに気付かせ、それらがどうして問題なのかを考え、その解決に向けて協働して話し合うことを通して、それらをなくすように努力していこうとする生徒を育成し、日常生活に結びつけたい。

（3）資料について

ア　資料の概要

本資料は、「変わっている」「空気が読めない」という表現を使い、友人ヨシトに対し偏った見方をしているクラスメイトに同調してしまった主人公「僕」が、自分の弱さに負けず、正義を貫こうと決意する姿が描かれている。主人公「僕」のように、本当はそう思っていなくても多数の意見に同調してしまったり、周りの雰囲気や仲のよい友人の意見に流されてしまう場面は、学校生活の中で誰にでも起こりうるため、自分事として考えることができる資料である。「僕」の姿を通して、自分の弱さに向き合いながら正義を貫こうとする気持ちに共感し、これまでの自分の経験やその時の感じ方・考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深め、誰にでも差別することなく、同じ態度で接することについて自分を振り返らせることができると考える。また、「僕」だけではなく、様々な立場の人の言動を考えることによって、自分本位で偏った見方や考え方をもつ部分に気付き、それらをなくすように努力していくことの大切さを考えるきっかけとしたいと考える。

イ　資料分析（○は中心発問）

主要場面	登場人物の言動や心の動き	気づかせたいこと	発　問	ねらいとする道徳的価値
		この話の中で何が道徳的問題なのか。	この話では、何が問題になっていると考えますか。	公正、公平、社会正義（価値理解）
主人公の「僕」が周りの目が気になってしまい、学級のみんなのヨシトへの見方に同調し、ヨシトに嘘をついてしまった場面。	ヨシトのことを「空気が読めない」と言うのはおかしいが、言えない。周りの目が気になって、本当のことが言えない。	周りに流されず、公平に接することが大切だと分かっていてもなかなか実現できない人間の弱さ。	「僕」はタカフミに話しかけられたとき、思っていることを言えなかったのはなぜだろう。	公正、公平、社会正義（人間理解）
		道徳的問題に直面したとき、自分なりの解決策を考えてみること。	もしみなさんが「僕」と同じ場面に出会ったら、自分ならどう行動するだろう。	公正、公平、社会正義（他者理解）
ヒゲを生やした顔のヨシトにティッシュを渡しながら、主人公の「僕」がしっかりと顔を上げた場面。	タカフミにはっきり言えなかったことを後悔している。 ヨシトは家族思いのいいやつだ。周りに流されずに、正しいことをしよう。	みんなが気持ちよく安心できる生活の実現に向けては、多様な感じ方や考え方があるということ。	○腹の底に熱いものを感じた「僕」は、何を考えていただろう。	公正、公平、社会正義（価値理解）
		授業で考えた価値観や解決策を、実生活で実践していくことの大切さ。 人が何か正しいことをしようとするとき、周りの反応や態度も深く影響するということ。	しっかりと顔を上げた「僕」は、また同じ場面に出会ったとき、タカフミに何と言うと思いますか。その時、腹の底に熱い塊を感じた時のどのような考えが影響していると思いますか。	公正、公平、社会正義（価値一般化）

4　本時の指導

（1）ねらい

正義と公正を重んじる立場から、道徳上の問題解決に向けて協動して話し合うことを通して、偏ったものの見方や考え方を避け、自他を尊重し、分け隔てなく等しく他者と関わることの大切さに気付き、集団の一員としてみんなが気持ちよく安心できる生活を実現していこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

（2）令和５年度東青地区中教研道徳部会研究主題との関わり

研究主題
「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める道徳教育」

本校の道徳教育の概要（ねらい）
（1）全教育活動を通して、意図的・計画的な道徳教育を推進し、道徳的価値及び人間としての生き方について、広い視野から多面的・多角的に捉え、自覚を深めさせることで、道徳性の育成を図る。
（2）豊かな体験活動、各教科との連携を図るなど指導計画の工夫を行い、「特別の教科　道徳」の時間を充実させることで、内面における道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図る。

研究内容
（1）発達段階に応じた道徳の授業ガイダンスを実施し、豊かな体験活動や各教科等と内容項目との関連的指導を図った年間指導計画の作成、道徳掲示板の充実、ローテーション授業の実施等、全教員で共通理解・共通実践を通して、指導力の向上に努める。
（2）学級経営を充実させ、多様な意見を受け止め、認め合う雰囲気を作り、
・生徒に本時の主題に対する問題意識を持たせ、自分事として捉えて考えさせる工夫
・他者との対話を手がかりにして、多面的・多角的な視点から考えさせる発問や学習形態の工夫
・効果的な ICT の活用
・自らを振り返り、これからについて考える時間の確保
を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
（3）生徒の学習状況を見取る評価の視点を明確にして、道徳の授業の中で道徳性につながっていく成長の様子を総合的に把握し、評価できるよう、ノートやワークシート、タブレットに保存された記述、発言、話合いの様子、自己評価や相互評価等、毎時間の評価情報を様々な方法で蓄積し、活用する。また、チームによる評価を実践し、複数の目から生徒の学習状況を見取ることで、信頼性や妥当性を確保する。

本時では、導入段階で普段の学校生活で起こり得る場面を教師によるデモンストレーションで示し、問題点を共有することで本時の主題に関わる問題意識を持たせ、展開部分で自分ならどう行動するかと問うことで、道徳的な問題を自分事として捉えられるようにした。そして、展開前段において、ジャムボードを活用して意見を出し合わせ、それを基に主人公「僕」の気持ちの変化について考えていく。発表が苦手な生徒もいるため、ジャムボードを活用することで、全員が意見を表明することができる。また、付箋の色を立場によって変えて整理することで、多面的・多角的な視点から考えられるようにする。展開後段では、様々な立場の気持ちを考えさせるだけではなく、「タカフミに何と言うか。」という発問をすることで、道徳的価値の理解にとどまらず、実生活にも生かせるような道徳的実践を視野にいれた流れを展開していく。評価においては、授業者が授業の中ですべての生徒の様子を知るのは困難である。そのため、授業でのつぶやきを拾い、評価に役立てられるために、授業者ではない学年所属教員が、授業を受けている生徒の観察をし、評価の補助をすることで信頼性や妥当性を確保していく。

（3）展　開

段階		教師の働きかけ	予想される生徒の反応と活動	留意点
導入	価値への方向付け　5分	・授業が始まる直前にデモンストレーションをする。		・普段の学校生活でありそうな場面について、不公平さが伝わるようなデモンストレーションをする。
		・デモンストレーションについて質問する。 ①さっきの大川先生の態度を見て、どう思いましたか。見ていてどう感じましたか。 ②上條先生はどういう気持ちだったと思いますか。 ③なぜ大川先生は、あんな態度をとっただろう。 ・大川先生の上條先生への態度は、ひどかったですよね。これだと上條先生も悲しい気持ちになるし、見ているみんなもいい気持ちはしませんよね。でも、このような場面は普段の学校生活でよく起こりえることでもあります。今日は、どうすればみんなが気持ちよく生活できるか考えてみよう。	・ひどいと思った。 ・態度が冷たいと思った。 ・避けている態度がよくない。 ・上條先生は悲しかったと思う。 ・大川先生にむかついたと思う。 ・見ていて気分はよくない。 ・イライラしてるから。 ・何か嫌なことがあったから。 ・上條先生が嫌いだから。	・どのような態度を見て、どう感じたかを明確にする。 ・様々な視点から、気持ちを想像させる。
		みんなが気持ちよく安心して生活するために、どんなことを大切にしていけばよいのだろう。		

展開	展開前段 25分	・資料を読む。		・登場人物や簡単なあらすじを紹介し、この話では何が問題になっているかを考えながら聞くように指示を出す。
		① この話では、何が問題になっていると考えますか。	・ヨシトのことを「変わっている」「空気が読めない」と言うこと。 ・タカフミが「僕」に告げ口したこと。 ・「僕」が嘘をついたこと。 ・教室にいるみんなの雰囲気。 ・冷ややかな視線。 ・ヨシトのことを書いた紙を授業中に回していること。	・どうして問題になっているのか、理由も述べさせる。
		② 「僕」はタカフミに話しかけられたとき、思っていることを言えなかったのはなぜだろう。	・自分も変わっていると思われたらどうしようと思った。 ・みんなから自分がどう思われるか心配になった。 ・なんとなく言える雰囲気じゃなかった。	・「僕」が同調圧力に流されていることに気付かせる。
		③ もしみなさんが「僕」と同じ場面に出会ったら、自分ならどう行動するだろう。 ・全体で話し合う。	・仲のよい友達が悪く思われているのは我慢できないからタカフミにはっきり言えると思う。 ・どうしようか迷うけど、やっぱり友達のことが大切だから言えると思う。 ・言いたい気持ちはあるけど、周りの反応が気になって言えないかもしれない。 ・自分がどう思われるか不安で、勇気がでないと思う。 ・後から誰かに相談する。	・周りに流されず、公平に接することが大切だと分かっていてもなかなか実現できない人間の弱さに触れる。 ・「思っていることを言う」の意見が多い場合は、アンケート結果３と４を電子黒板に示し、揺さぶる。

展開		④ 中心発問 腹の底に熱いものを感じた「僕」は、何を考えていただろう。 ・ジャムボートを活用し、意見を出し合わせる。	・ヨシトを笑いものにするのは許せない。 ・ヨシトは家族思いでいいやつなのに。 ・いじめは許さない。 ・教室で嘘をついてごめん。 ・周りに流されてしまった自分はだめなやつだ。 ・これからはヨシトを守っていく。これからははっきり自分の考えを言おう。	
	展開後段 10分	⑤ しっかりと顔を上げた「僕」は、また同じ場面に出会ったとき、タカフミに何と言うと思いますか。その時、腹の底に熱い塊を感じた時のどのような考えが影響していると思いますか。 ・ペアで役割演技をする。 ・口調が荒くなってしまった場合は、タカフミの気持ちを考えさせる。 ・タカフミの立場になって、タカフミはどう行動するべきかも考えさせる。	・「そうかな、ヨシトは結構いいやつだよ。」 ・「空気読めないなんて、思ったことないけどな。」 ・「ヨシトのこと、そんなふうに言うなよ。」	評価１ タカフミと「僕」のやりとりを通して、みんなが気持ちよく安心して生活するための方法を、多面的・多角的に考えている。 ○発表、観察 ワークシート

	価値のまとめ　10分	⑥　今日の授業を通して、みんなが気持ちよく安心して生活するために、大切にしていきたいことや考えたことを書こう。 ・個人で考えを整理する。 ・教師の説話をする。	・私も周りの目が気になって流されてしまうことがあるが、これからは自分が正しいと思うことをしていきたい。 ・今までの自分を振り返ると、相手を傷つけてしまうことがあったので、言葉遣いに気をつけていきたい。 ・相手を気遣うのは思っている以上に大変だったが、少しずつ相手のことを考えた行動ができるようになりたい。 ・人を思いやる気持ちを大切にしたい。	評価２ みんなが気持ちよく安心して生活するために、大切にしたいことや考えたことを、今後の生活に結びつけて考えている。 〇ワークシート

5　板書計画

ヨシト　いじめや差別のない学校や社会を実現するために、どうすればいいのだろう。

問題になっていること

［僕］・タカフミに自分の気持ちを言えなかった。
・ヨシトに嘘をついた。
・周りの雰囲気に流された。

［周り］・タカフミの発言
・教室にいるみんなの雰囲気
・冷ややかな視線。
・ヨシトのことを書いた手紙を授業中に回している。

・周りの反応が気になる。
・自分がどう思われるか不安で勇気が出ない。
・なんとなく言えなかった。

➡

・ヨシトを笑うのは許せない。
・ヨシトは家族思いなのに。
・嘘ついてごめん。
・周りに流された自分はだめだ。
・これからははっきり言おう。

相手のことを考える

人を思いやる

・そうかな、ヨシトは結構いいやつだよ。
・空気読めないなんて、思ったことないけどな。
・ヨシトのことそんな風に言うなよ。

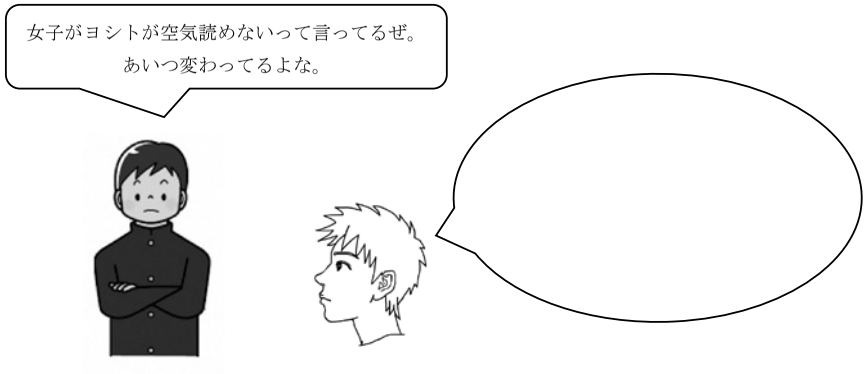
言葉遣い

周りに流されない

6　ワークシート　　※ 生徒に配付するワークシートには、発問は載せない。

ヨシト	氏名

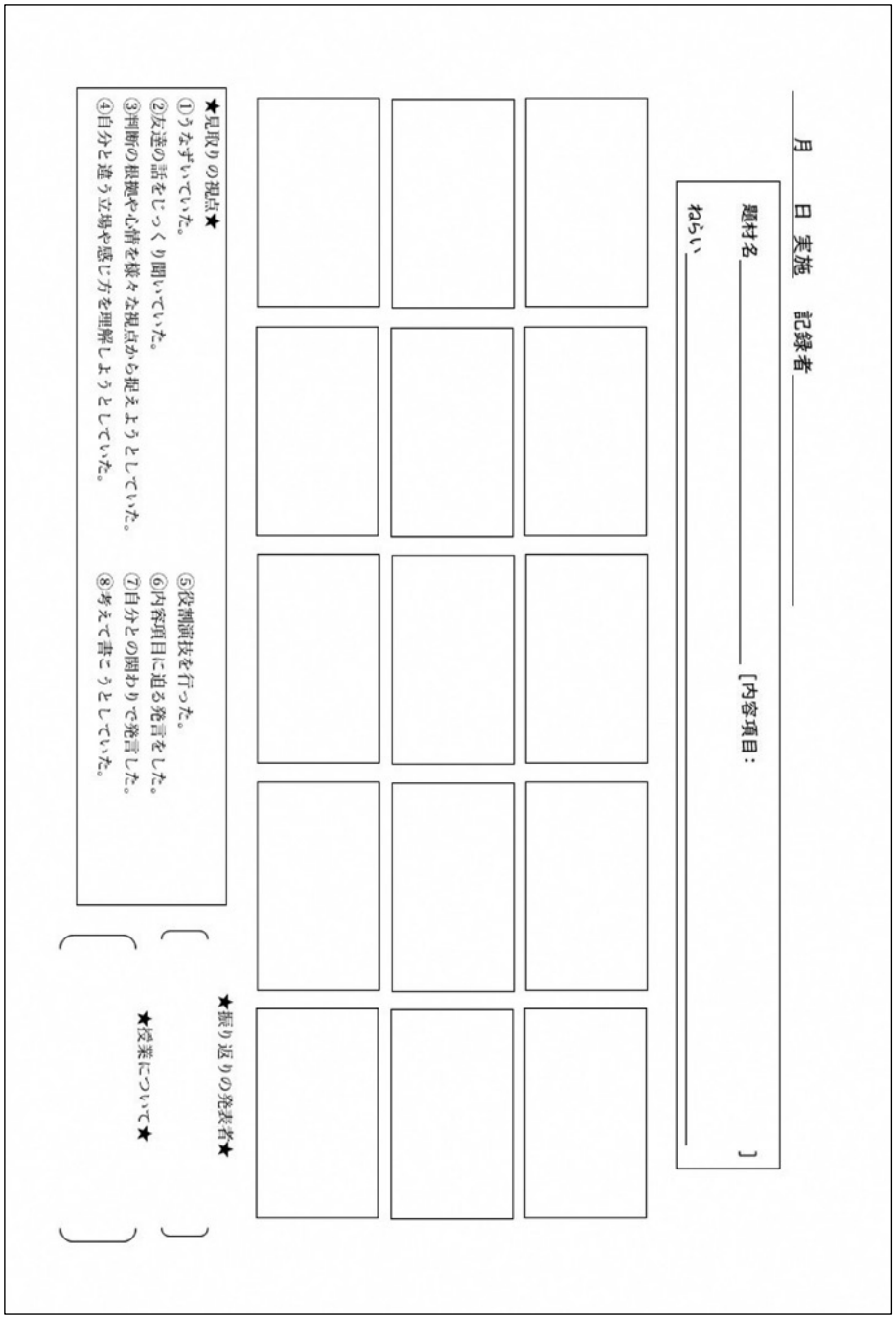
（1）しっかりと顔を上げた「僕」がまた同じ場面に出会ったとき、タカフミに何と言うと思いますか。



（2）今日の授業をとして、みんなが気持ちよく安心して生活するために、大切にしていきたいことや考えたことを書こう。

自分への振り返り　〇印をつけよう

今日の学習内容は	印象に残った	┼┼┼┼┼	印象に残らなかった
友達の意見や話合いから，新しい発見や気づきが	あった	┼┼┼┼┼	なかった
自分の考えを深めることが	できた	┼┼┼┼┼	できなかった
これから大切にしたいことが	わかった	┼┼┼┼┼	わからなかった



第１学年　道徳指導案

日　時　令和５年９月２６日（火）
対　象　１年１組（男子８名　女子４名　計１２名）
指導者　教諭　　今　　脩平
　　教諭　　松館　美子

１　主題名　公平とは何か

２　資料名　「公平と不公平」
　　出典　『中学道徳　あすを生きる１』（日本文教出版）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

本主題は、内容項目Ｃ「正義と公平さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」をねらいとしている。「正義や公平さ」を重んじるとは、私心にとらわれず、正しいと信じることを自ら積極的に実践しようと努めることである。また、「誰に対しても公平に接する」とは、偏ったものの見方や考え方を避け、自他を尊重し、分け隔てなく等しく他者と関わることである。

中学生になると、自分と社会との関わりを通して、社会の矛盾や課題に気づき、公正・公平への意識も強くなってくる。公平に接するためには、好き嫌いの感情や偏見からくる偏ったものの見方や考え方を避けようと努めることが大切で、誰に対しても分け隔てなく公平に接し続けようとすることは重要である。しかし、全てをただ同じように扱うことだけが正しく公平であるのではなく、時にはその場の状況や相手の立場を考慮し、公正に判断を下さなければならない。さらには、「公平か、不公平か」と決めることにとどまらず、それを判断する際には何が根拠となるのかということまで考えを深めていくことが大切になってくる。生徒にはそれらが差別や偏見のないよりよい社会につながることに気付かせ、物事の是非を見極めて誰に対しても公平に接し、自他の考える公平を力を合わせて実現していこうとする態度を育てることが重要である。

（２）生徒について

本学年は男子８名、女子４名の少人数学級である。６月に行った教研式道徳教育アセスメントBEINGの調査結果によると、本学級では、「振り返る力」「前向きにとらえる力」はおおよそ全国的な傾向と同じといえるが、「共感する力」はやや低い傾向となった。このことから、「相手と心を通わせることや、よりよくなるためにいかに生きるかを考え、自分を見つめ直すなどの自己理解を促せるとよい」との結果であった。また、学校生活の自己チェックにおける「分け隔てのない関わり【公正・公平】」については、「いつもしている」の生徒の割合が全国平均よりも大きく下回っている。ただし、「だいたいしている」を含めると全国平均並みと言える。道徳の授業にどの程度生徒が積極的に取り組んでいるかについては、８項目のうち「登場人物の立場で考える」が全国平均よりやや低い結果となったが、「素直に発言している」、「日常生活で役立てている」と回答する割合が多いことから、全体的に見て、道徳の授業に積極的である

と言える。

人間関係においては、小学校からの人間関係が固定化され、人間関係に広がりがなく、多様な意見や価値観に触れる機会が限られているという実態があるためか、自分の本音を出せず、悩む生徒が見られる。目立ったトラブルはなく一見して男女ともに仲の良さを感じるが、小学校からの関係の積み重ねからか、相手を見下す発言やとげのある言葉を平気で使ってしまうことがある。それでも関係性を崩したくないと、そういった発言に対して我慢をしてその場を取り繕う生徒もいる。しかし、学級内に健康上の問題から配慮が必要な生徒がいるためか、他者への気遣いや助け合いができ、不和があっても適切な行動をとることができる学級でもある。

生徒に対して公平・不公平の考え方についてアンケートを行った。

（1）「これまでにあった不公平だと思う体験・経験を教えてください。」
・運動会の綱引きで、色組に混じっている大人の数の差。
・弟がご褒美にいいものをもらっているが、自分はもらっていない。
・会長だから仕事をやらなければならないということ。
・小学校の時にプログラムを作成する活動で、自分にだけやらなくていいといわれた時。
・他の家庭ではゲームを買ってと言えば買ってくれるが、自分の家では買ってくれない。
・ゲームでの対戦する人数比率がおかしかった時。
（2）「不公平がなくなったらどうなると思いますか」
・面白いや楽しいの感情を感じなくなることもある。
・みんなが正々堂々全力で戦える。
・みんなが平等で努力をしないと成し遂げられなくなる。
・ケンカが起こらなくなる。
・平等になるから、みんなが嬉しくなる。
・争い事が減る、無くなる。
・みんなの意見を取り入れられる。
・不公平は少しは必要だ。

以上のアンケート結果から、平等と公平を混同している回答がいくつかあったため、導入段階で平等と公平の違いについて触れることとした。

良い学級にしたい、ダメなものはダメだが、必要があれば柔軟に対応して学級を向上させたい意欲があるため、本時の資料を通して自分の考えや行動を振り返り、公平・公正の視点に立って物事の是非を多面的・多角的な視点で判断する活動を通して、力を合わせて公平を実現していこうとする意欲を高めていきたい。

（3）資料について

ア　資料の概要

本資料は、３つの事例から構成されている。事例１は、年齢の違いによってお年玉をもらう金額が違うこと、事例２は、コンサート会場に入場する際、車いすの人は優先入場できること、事例３は、学級の班活動でのまとめを一人で行うことである。これらは、身近にある「公平と不公平」の事例であり、日常生活の中には公平か不公平か判断が難しいものが存在することに気付かせることができる事例である。３つの事例には不公平を感じる登場人物がいるため、その登場人物の視点に立つことで不公平と感じる原因に迫ることができる。他者の意見を否定せず耳を傾け、自分の考えと比べることで、公平とは何に基づいてどのように判断すればよいのかを考えさせたい。

公平を判断する基準は一つではなく、人それぞれの考え方によって変わってくることから判断が難しいことに気付かせ、様々な立場に立って多くの視点を持ち、日常生活でも考えながら生活していくことが、よりよい社会につながっていくことを伝えたい。

イ　資料分析（〇は中心発問）

主要場面	登場人物の言動や心の動き	気づかせたいこと	発　問	ねらいとする道徳的価値
Aの事例について		おじいさんは年齢や生活に必要な金額などを考慮し、2人に公平な視点で考え、差をつけたこと。	〇おじいさんはどうして姉妹で差をつけたのだろう。	公正・公平・社会正義 （他者理解） （価値理解）
Bの事例について		コンサートの運営側は、観客の安心安全を考慮して楽しんでもらうために入場を分けたということ。	〇なぜ観客の入り口を分けたのだろう。	公正・公平・社会正義 （他者理解） （価値理解）
Cの事例について		役割分担にはその人の希望や、適材適所など様々な方法があるということ。	〇役割分担をする時に何を理由に判断するだろう。	公正・公平・社会正義 （他者理解） （価値理解）
		授業で考えた価値観や視点を振り返り、自他の公平を協力して実現する大切さ。	公平を判断するときに大切になることは何だろうか。	公正・公平・社会正義 （価値一般化）

4　本時の指導

（1）ねらい

公平という視点に立って物事の是非を見極めるために他者と協動して話し合うことを通して、主観にとらわれず、多面的・多角的な視点で物事を判断し、社会をよりよくしていこうとする道徳的実践意欲を高める。

（2）令和５年度東青地区中教研道徳部会研究主題との関わり

研究主題
「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める道徳教育」

本校の道徳教育の概要（ねらい）
（1）全教育活動を通して、意図的・計画的な道徳教育を推進し、道徳的価値及び人間としての生き方について、広い視野から多面的・多角的に捉え、自覚を深めさせることで、道徳性の育成を図る。
（2）豊かな体験活動、各教科との連携を図るなど指導計画の工夫を行い、「特別の教科　道徳」の時間を充実させることで、内面における道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図る。

研究内容
（1）発達段階に応じた道徳の授業ガイダンスを実施し、豊かな体験活動や各教科等と内容項目との関連的指導を図った年間指導計画の作成、道徳掲示板の充実、ローテーション授業の実施等、全教員で共通理解・共通実践を通して、指導力の向上に努める。
（2）学級経営を充実させ、多様な意見を受け止め、認め合う雰囲気を作り、
・生徒に本時の主題に対する問題意識を持たせ、自分事として捉えて考えさせる工夫
・他者との対話を手がかりにして、多面的・多角的な視点から考えさせる発問や学習形態の工夫
・効果的な ICT の活用
・自らを振り返り、これからについて考える時間の確保
を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
（3）生徒の学習状況を見取る評価の視点を明確にして、道徳の授業の中で道徳性につながっていく成長の様子を総合的に把握し、評価できるよう、ノートやワークシート、タブレットに保存された記述、発言、話合いの様子、自己評価や相互評価等、毎時間の評価情報を様々な方法で蓄積し、活用する。また、チームによる評価を実践し、複数の目から生徒の学習状況を見取ることで、信頼性や妥当性を確保する。

（3）展　開

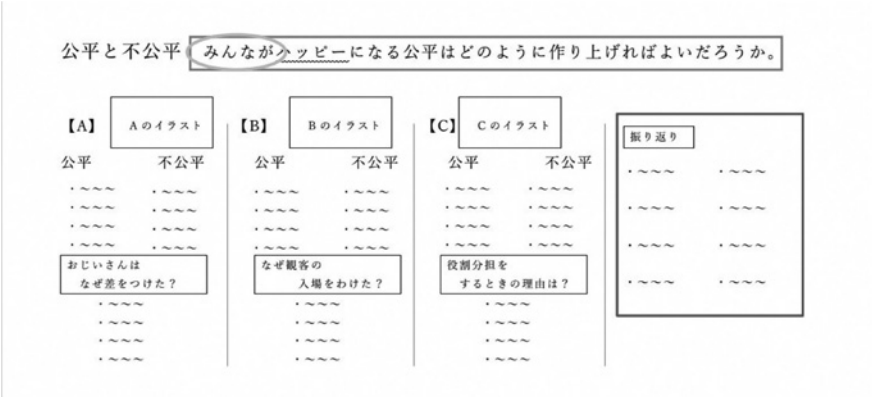
課題は事前に読ませ、それぞれの公平、不公平の視点を心情メーターに表してから授業に臨ませる。

段階		教師の働きかけ	予想される生徒の反応と活動	留意点
導入	価値への方向付け　5分	1　公平と平等の違いとは何だろうか。 ・目的に対して行うものを公平、一律にそろえるものを平等と説明する。 2　今日は公平について考えよう。 みんながハッピーになる公平は、どのように作り上げていけばよいだろうか。	・みんなに一つずつわたす。 ・A さんはいらないかも。 ・C さんに２つわたせばいい。	・電子黒板を使用。 ・公平と平等の違いを説明するスライド資料を使用する。
展開	展開前段　10分	3　A の事例についてどう思いますか。公平か不公平か、そう思った理由を話し合おう。 ④ おじいさんはなぜ姉妹で差をつけたのだろう。 ・それぞれの立場で考えさせる。	【公平】 ・姉妹で年齢差があるからいい。 ・姉のほうがお金を多く使う。 ・高校生になったら同じ金額がもらえる。 【不公平】 ・妹だってお金を使う。 ・姉ばかり多いのはずるい。 ・お姉ちゃんばかりずるい。 ・姉の方がお金が必要だから。 ・A さんはそこまで多く必要ではないと思ったから。 ・お金の使い方を学んでほしいから。	・心情メーターをもとに、生徒から意見を引き出す。 ・どちらかに偏るようであれば、教師から反対意見を出して気持ちを揺さぶる。 ・生徒の反応を観察する。(T2)

展開	展開後段 20分	5　B の事例についてどう思いますか。公平か不公平か、そう思った理由を話し合おう。	【公平】 ・車いすだからいいと思う。 ・一緒に並ぶと邪魔かも。 ・車いす専用席があるから、早く入場してもいいと思う。 ・移動が大変だから仕方がない。 【不公平】 ・みんなちゃんと並ぶべき。 ・先に行かれると少し腹が立つ。	・心情メーターをもとに、生徒から意見を引き出す。 ・どちらかに偏るようであれば、教師から反対意見を出して気持ちを揺さぶる。 ・生徒の反応を観察する。(T2)
		⑥ なぜ観客の入場をわけたのだろう。 ・それぞれの立場で考えさせる。	・列が混雑するから。 ・チケットの確認が難しいから。 ・安全にコンサートを楽しんで欲しいから。	
		7　C の事例についてどう思いますか。公平か不公平か、そう思った理由を話し合おう。	【公平】 ・字がきれいなほうがいい。 ・時間が限られているから、1人でまとめたほうが早い。 【不公平】 ・字がきれいでもまとめるのが上手なわけではない。 ・本当はいやかもしれない。	・心情メーターをもとに、生徒から意見を引き出す。 ・どちらかに偏るようであれば、教師から反対意見を出して気持ちを揺さぶる。 ・生徒の反応を観察する。(T2)
		⑧ 役割分担をする時に何を理由に判断するだろうか。 ・それぞれの立場で考えさせる。	・その人が頼れるかどうか。 ・できる力があるかどうか。	評価1 公平を多面的・多角的な視点で考えることができたか。 〇観察、心情メーター ◎学び合い

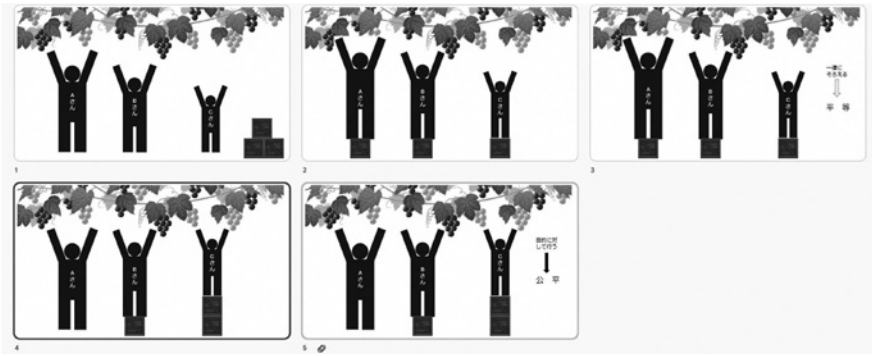
終末	価値のまとめ 10分	9　みんながハッピーになる公平はどのように作り上げればよいだろうか。 10　教師説話	・相手の立場になって何が正しいのかを考えること。 ・みんな同じは時と場によって変わる。 ・いろいろな考え方があるから、みんなの話し方をよく聞き、納得する方法を考えていくことが大切だと思った。	評価2 社会をより良くしていこうという立場で公平について考えることができたか。 〇ワークシート ◎学び合い ・振り返りは色画用紙に書かせる。

5　板書計画



6　スライド資料

〇平等と公平の違いを説明するスライド資料



令和５年度

道徳教育全体計画

外ヶ浜町立蟹田中学校

教育関係法令等
- 教育基本法、学校教育法
- 学習指導要領
- 県教育委員会指導の方針
- 町教育委員会指導の方針

学校教育目標
- 自ら学ぶ生徒
- 思いやりのある生徒
- 鍛え磨き合う生徒

○生徒・家庭・地域の実態
○保護者・地域の期待や願い
○学校教育の課題
○教師の理念と願い

努力目標
- 確かな学力の定着を目指し、進んで努力する生徒
- 互いのよさを認め合い、高め合う生徒
- 心身を鍛え、目標に向かって挑戦する生徒

本校の道徳教育の目標

・全教育活動を通して意図的・計画的な道徳教育を推進し、道徳的価値及び人間としての生き方について、広い視野から多面的、多角的に考え、自覚を深めさせることで、道徳性の育成を図る。
・豊かな体験活動、教科・領域等との関連を図るなど指導計画の工夫を行い、「特別の教科　道徳」の時間を充実させることで、内面における、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図る。

道徳教育の重点目標

・自主的に考え、自己の行動に責任をもち、目標に向かって困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする心を育成する。
Ａ－（１）、Ａ－（４）
・他の人に対し思いやりの心や寛容の心をもち、相手の立場を尊重する心を育成する。　Ｂ－（６）
・仲間と協力し合い、集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活を充実させようする心を育成する。　Ｃ－（１５）

道徳の時間の指導方針

・「心を耕す」道徳の時間において、道徳的実践力につながる道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を高めるため、生徒の発達段階・実情に応じて指導方法（教材提示・発問・話し合い・書く活動・表現活動・板書・説話・ＩＣＴ機器の活用）の工夫・改善を図り、生徒自身が物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的価値を深められるようにする。
・豊かな体験活動、教科・領域等との関連を図りながら、困難に立ち向かう強い心、思いやりの心、感動する心を重点として、人間としての生き方についての自覚を深め、生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図る。

各学年の重点目標

１学年	２学年	３学年
・自己を理解し、誰に対しても思いやりをもって接していこうとする心を育てる。 ・自己の目標に向かって努力し、困難があってもくじけず最後までやり抜こうとする心を育てる。	・それぞれの個性や立場を理解し、他者を思いやる心や態度を育てる。 ・自主的に考え、判断し、目標に向けて困難があってもくじけず、努力し続けようとする心を育てる。	・それぞれの個性や立場を尊重し、他者を思いやる心や態度を育てるとともに、人間愛の精神を深める。 ・自主的に考え、自らの意思と責任において、より高い目標をやり遂げ、人生を切り拓く心や態度を育てる。

教科・領域等における指導内容

各教科		特別活動			総合的な学習の時間	その他の教育活動
		学級活動	学校行事	生徒会活動		
国語	言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。	・一人一人を大切にする学級集団づくりを目指し、人間尊重の精神を深める。 ・心の交流を図り、自他を大切にしよりよくしようとする関係づくりに努める。	・様々な集団活動を通して、自主的に考え、協力し、責任を果たすなど豊かな道徳性を育てる。	・学校生活を自らの力でよりよくしようとする自主的実践的な態度と互いの良さを認め合い相手を思いやる心を育てる。	・地域での奉仕活動や職場体験などの様々な人と関わる活動を通して、自己の特性についての理解を深め、現在及び将来について、よりよい生き方を主体的に考える態度を育てる。	・学校生活全般を通して、望ましい生活習慣や態度を育てる。 ・給食・清掃指導を通して、望ましい人間関係づくりや勤労奉仕、責任協力、環境美化の態度を育てる。 ・部活動を通して、責任感・連帯感、克己心を育み、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
社会	グローバル化する国際社会に主体的に生きる公民としての資質・能力を育成する。					
数学	数学的に考える資質・能力を育成する。					
理科	自然の事物・現象を科学的に探求する資質・能力を育成する。					
音楽	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化に関わる資質・能力を育成する。					
美術	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。					
保健体育	心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。					
技術家庭	生活を工夫し創造する資質・能力を育成する。					
外国語	外国語による言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。					

道徳教育実践のための基盤

生徒指導の充実	学級・学年経営の充実	地域・家庭との連携	ＳＣとの連携	校内体制の充実
善悪の判断と正しい行動ができる生徒を育成する。 内面にはたらきかけるように指導を工夫する。	教育相談、生活記録等を通して、生徒理解に努め、温かな人間関係を築く。	学校、家庭、地域との相互理解を深め、交流を密にし、協力体制を整える。	スクールカウンセラーとの連携を強化し、教育相談体制の充実を図る。	道徳教育推進教師を中心とした協力体制と研修の充実を図り、指導力の向上に努める。

令和５年度
道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業報告集

令和６年４月

編集・発行　青森県道徳教育推進協議会